

資料編

所有者アンケート調査結果報告

目次

所有者アンケート調査結果.....	1
1. アンケート概要	1
2. アンケート結果	9
【問1】アンケート回答者の年齢 SN ₁ =392	9
【問2】建物の現在の状況（常態） SN ₁ =392.....	10
【問3】建物の現在の状況（利用状況） SN ₂ =338	11
【問4】今の使用状況になった時期 SN ₂ =338.....	14
【問5】建物の築年時期 SN ₂ =338	19
【問6】今の使用状況になった理由（複数回答） MN ₁ =418、SN ₂ =338	22
【問7】維持・管理の頻度 SN ₂ =338.....	26
【問8】維持・管理の内容（複数回答） MN ₂ =853、SN ₃ =319.....	31
【問9】建物の管理の方法 SN ₄ =248.....	33
【問10】建物敷地の庭木等の管理方法 SN ₅ =271	35
【問11】維持・管理上の問題点（複数回答） MN ₃ =574、SN ₃ =319.....	37
【問12】今後の活用方法（複数回答） MN ₄ =520、SN ₂ =338.....	42
【問13】解体除却の予定 SN ₂ =338.....	53
【問14】空き家・空き地バンクの認知度 SN ₂ =338.....	63
【自由意見】	66

所有者アンケート調査結果

1. アンケート概要

アンケート対象者は、平成 27 年度に行った空家現況調査（調査件数 742 件）の対象家屋の所有者としました。

表 1-1 アンケート回収率

発送件数	742 件	
返信件数	427 件	
回収率	57.5%	427 件／742 件

また、アンケート発送者に対し、対象とする建物の所有および管理の状況をたずねたところ、35 件が「所有・管理していない」と回答があり、今回のアンケート集計からは除外しました。

「わからない」「無回答」については、所有の有無は定かではありませんが、アンケートに回答している方が多いため、アンケート集計に含むものとしてしました。

表 1-2 建物所有の確認

建物所有の確認	回答数	割合
間違いない	257	60.2%
所有・管理していない	35	8.2%
わからない	4	0.9%
無回答	131	30.7%
計	427	100.0%

以上より、

※アンケート集計の元となるサンプル数

$$SN_1 : 427 - 35 = \underline{392} \text{ 件}$$

(アンケート回収率_地区別)

鳩吹台や愛岐ヶ丘といった市西部の住宅団地を含む「帷子地区」はアンケート発送が最も多く、回収率も64.9%と高くなっています。また、既成市街地を形成する「広見東地区」や「広見地区」、「土田地区」で回収率が高くなっています。

表 1-3 アンケート回収率（地区別）

建物の所在地(地区)	アンケート発送数		アンケート回収数	回収率
	件数	割合		
久々利地区	23	3.3%	10	43.5%
平牧地区	77	10.9%	41	53.2%
中恵土地区	15	2.1%	7	46.7%
広見東地区	17	2.4%	11	64.7%
広見地区	43	6.1%	28	65.1%
姫治地区	13	1.8%	6	46.2%
川合地区	9	1.3%	5	55.6%
今渡地区	38	5.4%	21	55.3%
下恵土地区	30	4.2%	14	46.7%
土田地区	46	6.5%	29	63.0%
春里地区	36	5.1%	20	55.6%
帷子地区	222	31.4%	144	64.9%
桜ヶ丘地区	100	14.1%	40	40.0%
兼山地区	38	5.4%	16	42.1%
計	707	100.0%	392	55.4%

※「所有・管理していない:35件」除く

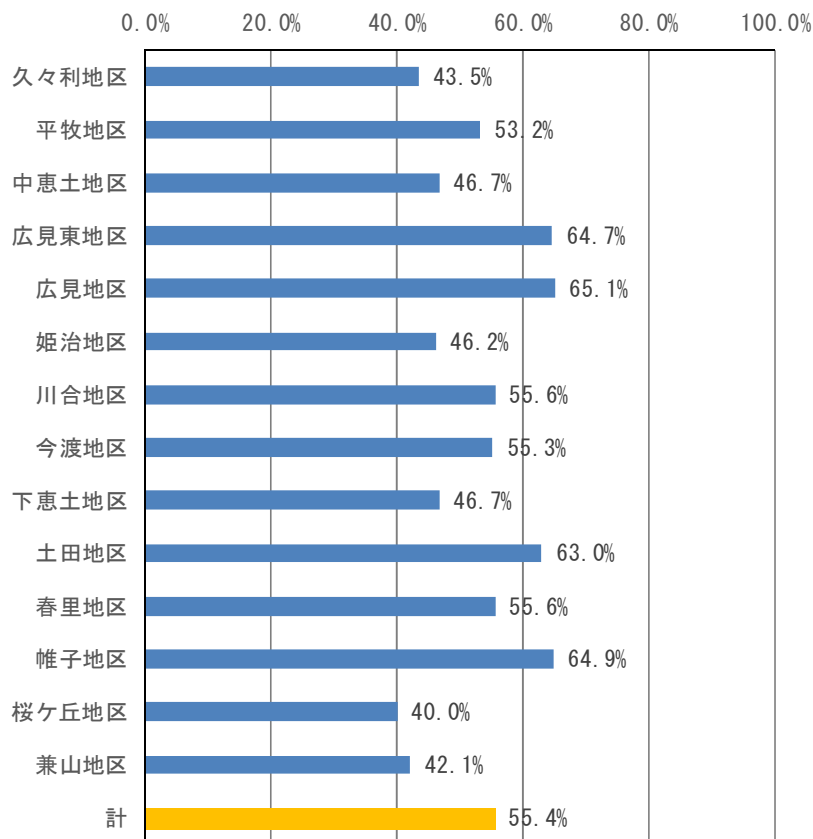


図 1-1 アンケート回収率（地区別）

(アンケート回収率_立地状況別)

農地や山林の多い「その他の地域」の回収率が最も高くなっていますが、立地状況による回収率の差異はほとんどみられず、空家に対する関心度は同程度であることがうかがえます。

表 1-4 アンケート回収率（立地状況別）

建物の所在地(立地状況)	アンケート発送数		アンケート回収数	回収率
	件数	割合		
既成市街地	189	26.7%	104	55.0%
住宅団地	409	57.9%	226	55.3%
その他の地域	109	15.4%	62	56.9%
計	707	100.0%	392	55.4%

※「所有・管理していない:35件」除く

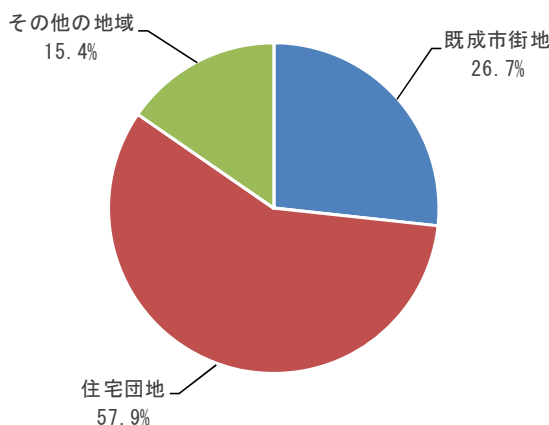


図 1-2 立地状況別アンケート発送数の割合

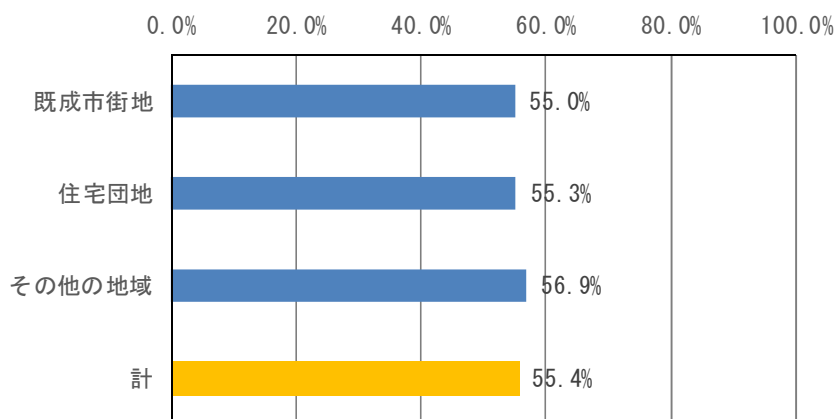


図 1-3 アンケート回収率（立地状況別）

※1：立地状況区分

既成市街地：中恵土、広見、川合、今渡、下恵土、土田、兼山

住宅団地：松伏、大森台、緑ヶ丘、羽生ヶ丘、広眺ヶ丘、禅台寺、清水ヶ丘、若葉台、長坂、緑、鳩吹台、愛岐ヶ丘、光陽台、虹ヶ丘、桜ヶ丘、臯ヶ丘、桂ヶ丘、みずきヶ丘、美里ヶ丘、星見台

その他の地域：久々利、柿下、久々利柿下入会、羽崎、二野、大森、瀬田、柿田、下切、今、矢戸、塩、坂戸、塩河、長洞、西帷子、菅刈、東帷子、淵之上、平貝戸、徳野南

(アンケート回収率_住宅団地の立地状況別)

市内の住宅団地の分布を西部、中部、東部に区分した場合のアンケート回収率をみると、中部の住宅団地で若干回収率が低くなっていますが、3地区とも半数を超えており、大きな差異はみられず、空家に対する関心度は同程度あることがうかがえます。

表 1-5 アンケート回収率（住宅団地の立地状況別）

建物の所在地(団地の立地状況)	アンケート発送数		アンケート回収数	回収率
	件数	割合		
西部	236	57.7%	130	55.1%
中部	54	13.2%	28	51.9%
東部	119	29.1%	68	57.1%
計	409	100.0%	226	55.3%

※「所有・管理していない:35件」除く

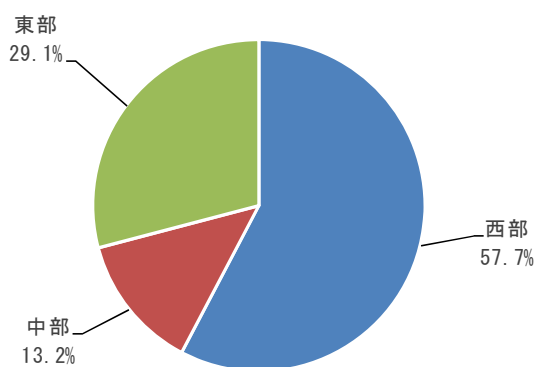


図 1-4 住宅団地の立地状況別アンケート発送数の割合

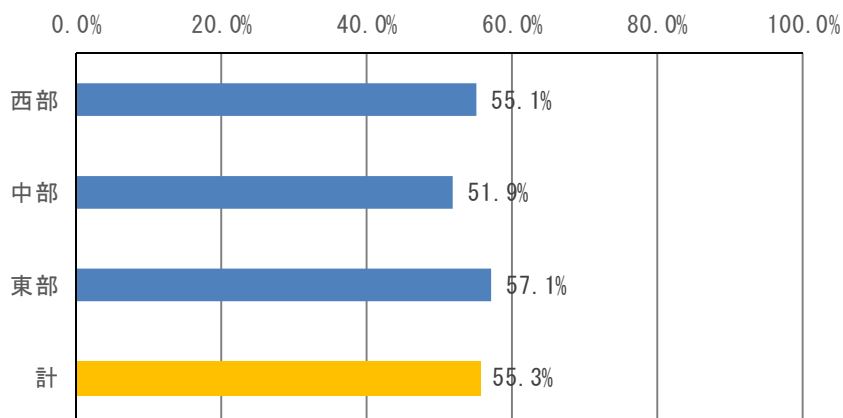


図 1-5 アンケート回収率（住宅団地の立地状況別）

※2：住宅団地の立地状況区分

西部：若葉台、長坂、緑、鳩吹台、愛岐ヶ丘、光陽台、虹ヶ丘

中部：大森台、広眺ヶ丘、禅台寺、清水ヶ丘、みずきヶ丘、美里ヶ丘

東部：松伏、緑ヶ丘、羽生ヶ丘、桜ヶ丘、臯ヶ丘、桂ヶ丘、星見台

(アンケート回収率_住宅団地の造成時期別)

市内の住宅団地の分布を造成時期別に区分した場合のアンケート回収率をみると、昭和56年～昭和60年に造成が完了した住宅団地の回収率が最も高く、年代が古くなるにつれ、回収率は下がる傾向にあります。ほぼ同程度となっています。

表 1-6 アンケート回収率（住宅団地の造成時期別）

建物の所在地(団地の造成時期)	アンケート発送数		アンケート回収数	回収率
	件数	割合		
昭和45年以前	29	7.1%	16	55.2%
昭和46年～昭和50年	202	49.4%	110	54.5%
昭和51年～昭和55年	131	32.0%	73	55.7%
昭和56年～昭和60年	40	9.8%	23	57.5%
昭和61年～	7	1.7%	4	57.1%
計	409	100.0%	226	55.3%

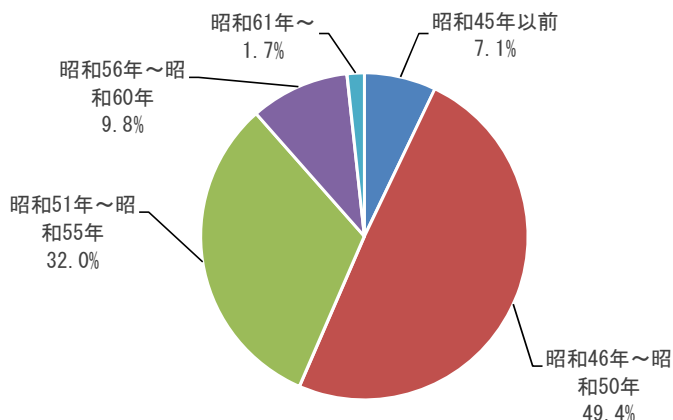


図 1-6 住宅団地の造成時期別アンケート発送数の割合

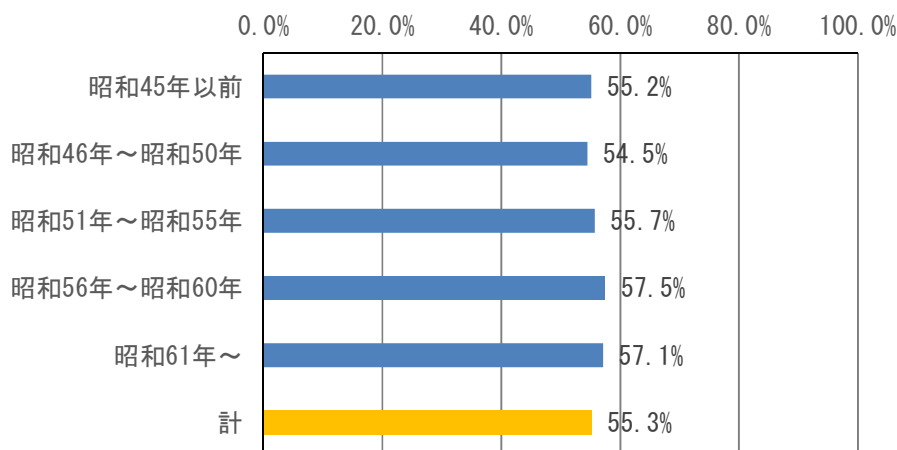


図 1-7 アンケート回収率（住宅団地の造成時期別）

※3：住宅団地の造成時期（開発の完了時期による区分。複数の開発年度がある場合は主要な開発の完了時期を採用した）

- ～S45：広眺ヶ丘、禅台寺
- S46～S50：松伏、大森台、清水ヶ丘、若葉台、長坂、鳩吹台
- S51～S55：緑ヶ丘、緑、愛岐ヶ丘、桜ヶ丘
- S56～S60：羽生ヶ丘、光陽台、皐ヶ丘
- S61～：桂ヶ丘

(アンケート回収率_所有者の居住地別)

空家所有者の居住地としては市内在住がほぼ半数を占めていますが、県外在住者も比較的多く、アンケートの回収率も高くなっています。

表 1-7 アンケート回収率（所有者の居住地別）

所有者の居住地	アンケート発送数		アンケート回収数	アンケート回収率
	件数	割合		
市内在住	359	50.8%	194	54.0%
県内市外在住	85	12.0%	40	47.1%
県外在住	263	37.2%	158	60.1%
計	707	100.0%	392	55.4%

※「所有・管理していない:35件」除く

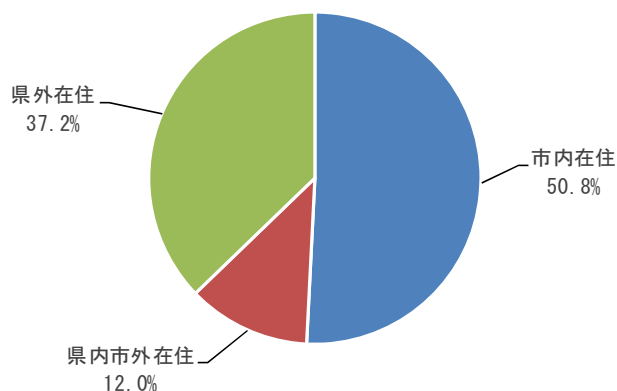


図 1-8 所有者の居住地別アンケート発送数の割合

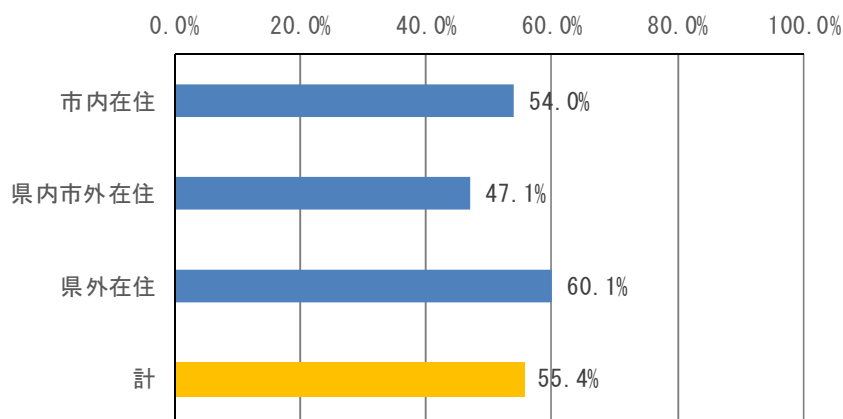


図 1-9 アンケート回収率（所有者の居住地別）

(アンケート回収率_空家現況調査における管理状況別)

空家現況調査における各種管理状況とアンケートの回収率の関連をみると、全ての項目において、管理状況が良好なものの方が高い回収率となっています。この傾向からアンケート全体の回収率は約6割であるが、残りの約4割は管理の意識が低い可能性があり、適正な維持管理が行われていない可能性が高いことがうかがえます。

表 1-8 アンケート回収率（空家現況調査における管理状況別）

※管理状況が良好なものを上段に記載

※「所有・管理していない：35件」を除く

管理状況(門扉)	アンケート発送数		アンケート回収数	回収率
	件数	割合		
有	381	53.9%	216	56.7%
無	326	46.1%	176	54.0%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(フェンス(塀))	アンケート発送数		アンケート回収数	回収率
	件数	割合		
有	419	59.3%	234	55.8%
無	288	40.7%	158	54.9%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(ゴミ散乱)	アンケート発送数		アンケート回収数	回収率
	件数	割合		
無	647	91.5%	369	57.0%
有	60	8.5%	23	38.3%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(樹木の張出し)	アンケート発送数		アンケート回収数	回収率
	件数	割合		
無	589	83.3%	341	57.9%
有	118	16.7%	51	43.2%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(雑草繁茂)	アンケート発送数		アンケート回収数	回収率
	件数	割合		
手入れ有	347	49.1%	210	60.5%
手入れ無	360	50.9%	182	50.6%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(外壁等破損)	アンケート発送数		アンケート回収数	回収率
	件数	割合		
無	700	99.0%	390	55.7%
有	7	1.0%	2	28.6%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(屋根等破損)	アンケート発送数		アンケート 回収数	回収率
	件数	割合		
無	677	95.8%	379	56.0%
有	30	4.2%	13	43.3%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(窓ガラス破損)	アンケート発送数		アンケート 回収数	回収率
	件数	割合		
無	701	99.2%	391	55.8%
有	6	0.8%	1	16.7%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(ベランダ等破損)	アンケート発送数		アンケート 回収数	回収率
	件数	割合		
無	701	99.2%	389	55.5%
有	6	0.8%	3	50.0%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(塀の傾き)	アンケート発送数		アンケート 回収数	回収率
	件数	割合		
無	707	100.0%	392	55.4%
有	0	0.0%	0	0.0%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(建物の傾き)	アンケート発送数		アンケート 回収数	回収率
	件数	割合		
無	701	99.2%	390	55.6%
有	6	0.8%	2	33.3%
計	707	100.0%	392	55.4%

管理状況(居住可能性)	アンケート発送数		アンケート 回収数	回収率
	件数	割合		
可能	692	97.9%	387	55.9%
不可能	14	2.0%	5	35.7%
判定不明	1	0.1%	0	0.0%
計	707	100.0%	392	55.4%

2. アンケート結果

【問1】アンケート回答者の年齢 SN₁=392

(アンケート回答者の年齢)

「60歳以上」が69.4%と7割近くを占めており、次いで「50～59歳」以下の15.6%で、回答者の年齢層は高い傾向となっています。

表 2-1-1 アンケート回答者の年齢

年齢	回答数	割合
29歳以下	6	1.5%
20～39歳以下	15	3.8%
40～49歳以下	24	6.1%
50～59歳以下	61	15.6%
60歳以上	272	69.4%
年齢不明	14	3.6%

※年齢不明：複数回答により回答不明なものと同無回答

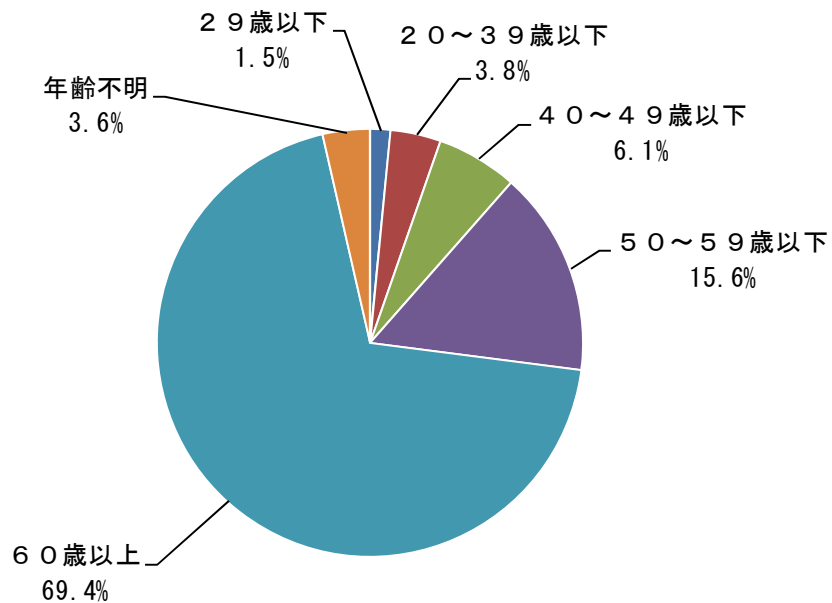


図 2-1-1 アンケート回答者の年齢

【問2】建物の現在の状況（常態） SN₁=392

（建物の現在の状況（常態））

常態的に「住んでいない」が321件で、有効回答のうち「空家」と思われる建物は約8割となっています。

表 2-2-1 建物の現在の状況（常態）

建物の状況(常態)	回答数	割合
常に住んでいる	54	13.8%
住んでいない	321	81.9%
状況不明	17	4.3%

※無回答のうち、以降の設問に回答がある場合はこの設問のみ「状況不明」、以降の設問に回答がない場合は「常に住んでいる」と判断しました。

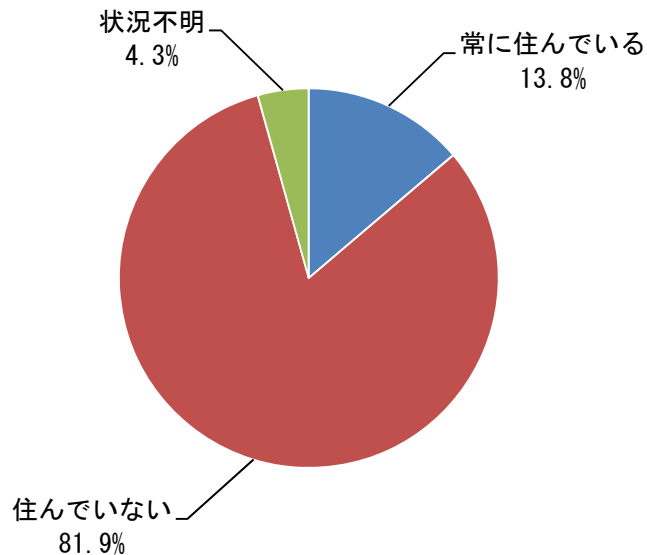


図 2-2-1 建物の現在の状況（常態）

※SN₂：【問2】において、「1. 常に住んでいる」を選択した方を除く

【問3】建物の現在の状況（利用状況） SN₂=338

（建物の現在の状況（利用状況））

「全く利用していない」建物が26.9%と約3割となっています。また、「一時的に住んでいない」については、全ての回答が1年以上住んでいないと回答しているため、特措法で定義されている空家として扱うことができ、完全な空家としては、「全く利用していない」と「一時的に住んでいない」を足した113物件（33.4%）となります。

一方、「物置・倉庫として利用している」が23.4%、「時々過ごすための家」が22.2%など、なんらかで利用している割合が半数近くを占めています。

表 2-3-1 建物の現在の状況（利用状況）

建物の状況(利用状況)	回答数	割合
一時的に住んでいない	22	6.5%
全く利用していない	91	26.9%
時々過ごすための家	75	22.2%
物置・倉庫として利用している	79	23.4%
仕事場・作業場として利用している	6	1.8%
その他	40	11.8%
状況不明	25	7.4%

※状況不明：複数回答により回答不明なものと無回答

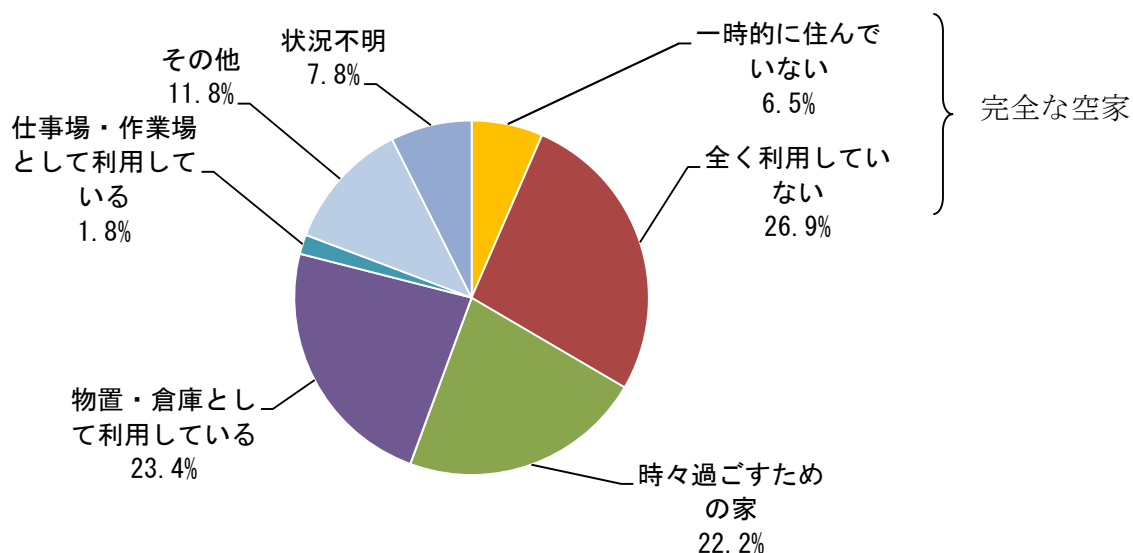


図 2-3-1 建物の現在の状況（利用状況）

(建物の現在の状況 (利用区分)) SN₂₋₂=336

建物の利用状況を「完全な空き家」となんらかの活用がなされている「活用中の空き家」の2つに区分すると、「完全な空き家」は全体の3割強となっています。

表 2-3-2 建物の現在の状況 (利用区分)

利用区分	回答数	割合
完全な空き家	113	33.6%
活用中の空き家	223	66.4%

※利用状況が無回答 (2 件) 除く

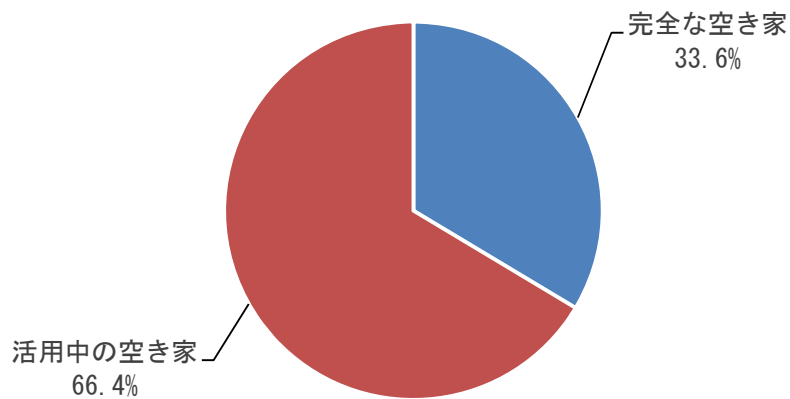


図 2-3-2 建物の現在の状況 (利用区分)

※4：利用区分

完全な空き家

「一時的に住んでいない」、「全く利用していない」

活用中の空き家

「時々過ごすための家」、「物置・倉庫として利用している」、
「仕事場・作業場として利用している」、「その他」、
「状況不明」のうち、複数回答がされているため、回答が不明なもの
⇒なんらかの活用があると判断した

(建物の現在の状況（利用区分）×立地状況）SN₂₋₂=336

「完全な空家」については、住宅団地に比較的多く分布しており、「活用中の空家」についても、住宅団地に多くなっていますが、他の地域においても「完全な空家」の割合に比べ、高くなっています。

表 2-3-3 建物の現在の状況（利用区分）×立地状況

立地状況 利用区分	既成市街地		住宅団地		その他地域		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	31	27.4%	71	62.8%	11	9.7%	113	100.0%
活用中の空家	68	30.5%	110	49.3%	45	20.2%	223	100.0%

※利用状況が無回答（2件）除く

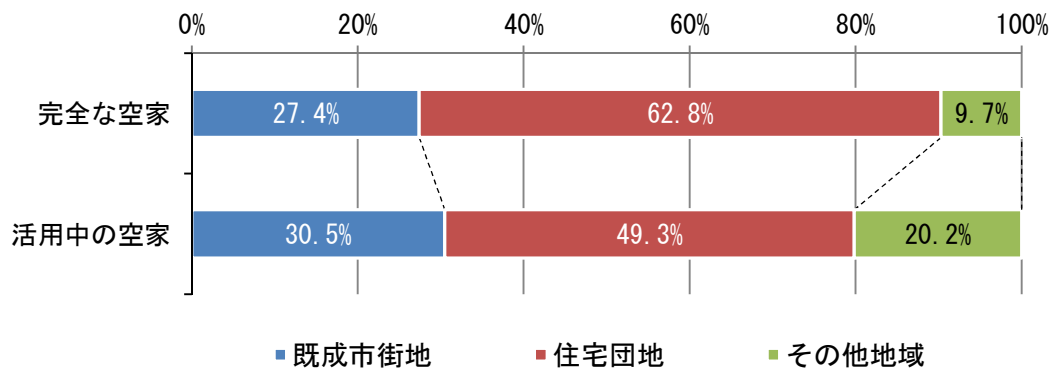


図 2-3-3 建物の現在の状況（利用区分）×立地状況

【問4】今の使用状況になった時期 SN₂=338

(今の使用状況になった時期)

「2～5年前」が43.5%で最も多く、それらを含めて10年経っていない建物で約7割(67.2%)を占めています。

表 2-4-1 今の使用状況になった時期

今の使用状況になった時期	回答数	割合
1年以内	11	3.3%
2～5年前	147	43.5%
6～9年前	69	20.4%
10年以上前	89	26.3%
わからない	7	2.1%
時期不明	15	4.4%

※時期不明：回答が不明なものと同無回答

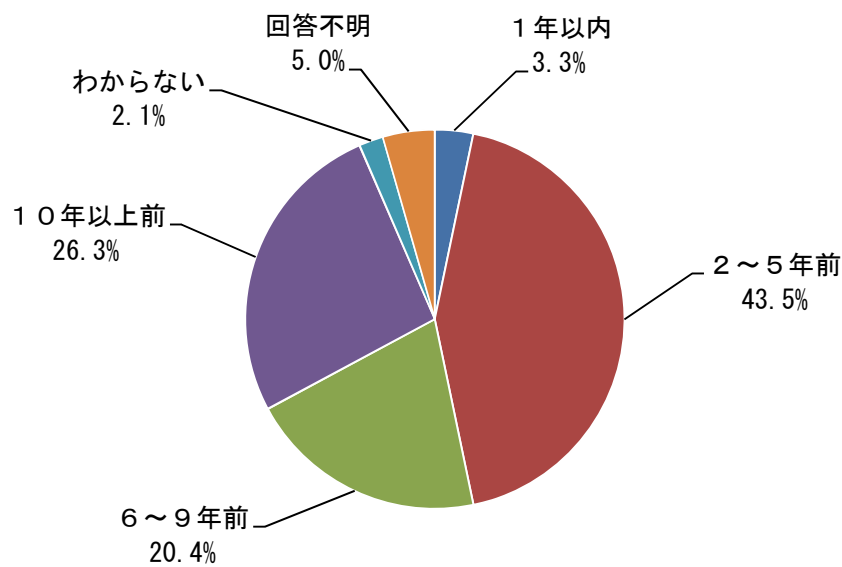


図 2-4-1 今の使用状況になった時期

(今の使用状況になった時期×利用区分) SN₂₋₂=336

「完全な空家」では、「2～5年前」のものが最も多く、今の使用状況になってからあまり年月の経っていないものが「完全な空家」化していることがうかがえます。「活用中の空家」については、「1年以内」のものが比較的割合が高くなっていますが、「完全な空家」の傾向をみると、1年程度は活用するが、2年目以降の早い段階で完全な空家に移行していることがうかがえます。

表 2-4-2 今の使用状況になった時期×利用区分

利用区分	1年以内		2～5年前		6～9年前	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	1	0.9%	61	54.0%	22	19.5%
活用中の空家	10	4.5%	86	38.6%	47	21.1%

利用区分	10年以上前		時期不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	27	23.9%	2	1.8%	113	100.0%
活用中の空家	62	27.8%	18	8.1%	223	100.0%

※利用状況が無回答（2件）除く

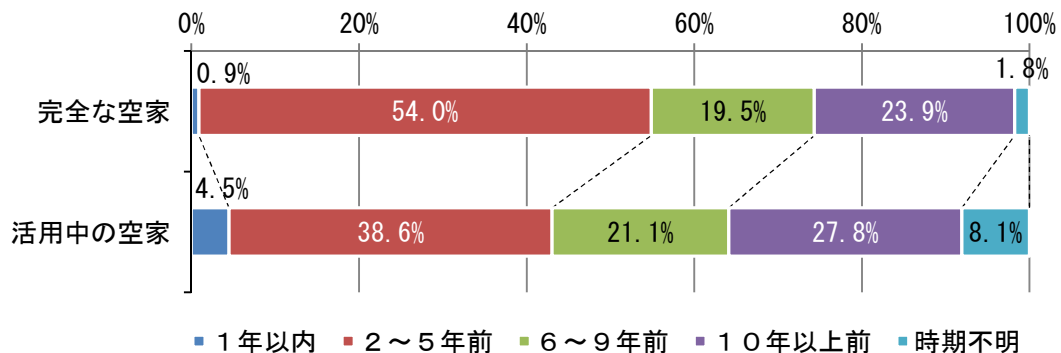


図 2-4-2 今の使用状況になった時期×利用区分

(今の使用状況になった時期×立地状況) SN₂=338

「既成市街地」や「住宅団地」で、ここ5年程度で急激に空家が増えたことがうかがえます。一方、「その他の地域」では、10年以上空家の状態で残されている空家が多いことがうかがえます。

表 2-4-3 今の使用状況になった時期×立地状況

立地状況	1年以内		2～5年前		6～9年前	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	3	3.0%	54	54.5%	16	16.2%
住宅団地	4	2.2%	88	48.4%	39	21.4%
その他の地域	4	7.0%	5	8.8%	14	24.6%

立地状況	10年以上前		時期不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	23	23.2%	3	3.0%	99	100.0%
住宅団地	39	21.4%	12	6.6%	182	100.0%
その他の地域	27	47.4%	7	12.3%	57	100.0%

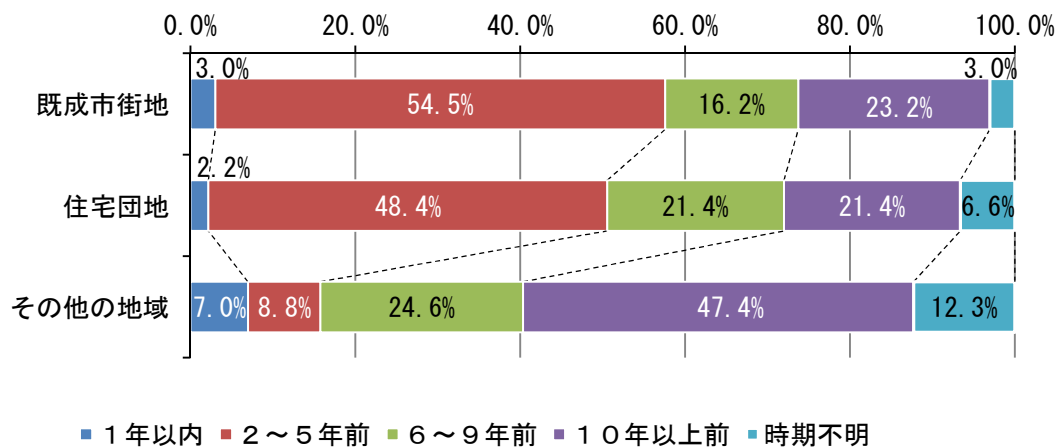


図 2-4-3 今の使用状況になった時期×立地状況

(今の使用状況になった時期×立地状況×利用区分)

今の使用状況になった時期の中で回答数の多かった「2～5年前」、「6～9年前」、「10年以上前」について、立地状況別で利用区分の割合をみると、住宅団地と既成市街地では、「2～5年前」では「完全な空家」の割合が高く、それ以前の空家では、「活用中の空家」の割合が高くなっています。一方、「その他の地域」では母数は少なくなっていますが、「2～5年前」の「完全な空家」はなく、「10年以上前」の空家で「完全な空家」の割合が高くなるなど、「住宅団地」や「既成市街地」と傾向が逆転しています。

表 2-4-4 今の使用状況になった時期×立地状況×利用区分

立地状況:既成市街地

立地状況 利用区分	完全な空家		活用中の空家	
	件数	割合	件数	割合
2～5年前	20	64.5%	34	54.8%
6～9年前	4	12.9%	12	19.4%
10年以上前	7	22.6%	16	25.8%
計	31	100.0%	62	100.0%

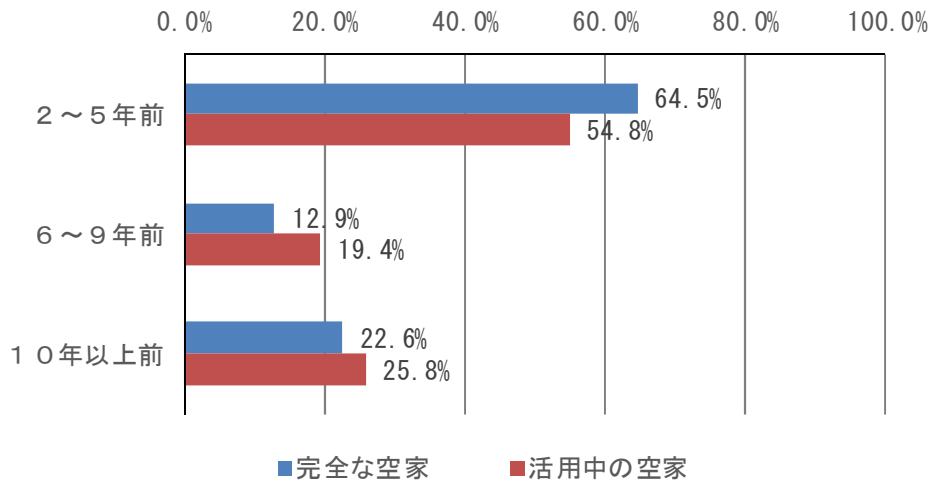
立地状況:住宅団地

立地状況 利用区分	完全な空家		活用中の空家	
	件数	割合	件数	割合
2～5年前	41	59.4%	47	48.5%
6～9年前	15	21.7%	24	24.7%
10年以上前	13	18.8%	26	26.8%
計	69	100.0%	97	100.0%

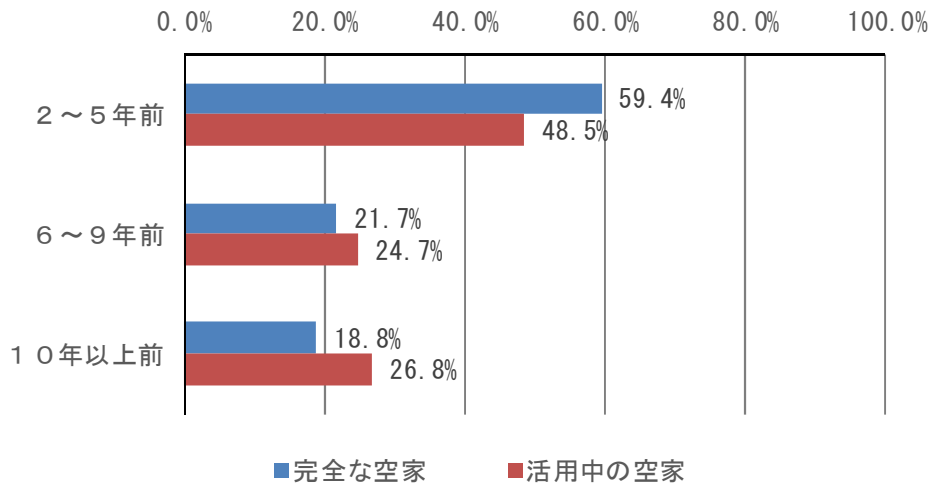
立地状況:その他の地域

立地状況 利用区分	完全な空家		活用中の空家	
	件数	割合	件数	割合
2～5年前	0	0.0%	5	13.9%
6～9年前	3	30.0%	11	30.6%
10年以上前	7	70.0%	20	55.6%
計	10	100.0%	36	100.0%

既成市街地



住宅団地



その他の地域

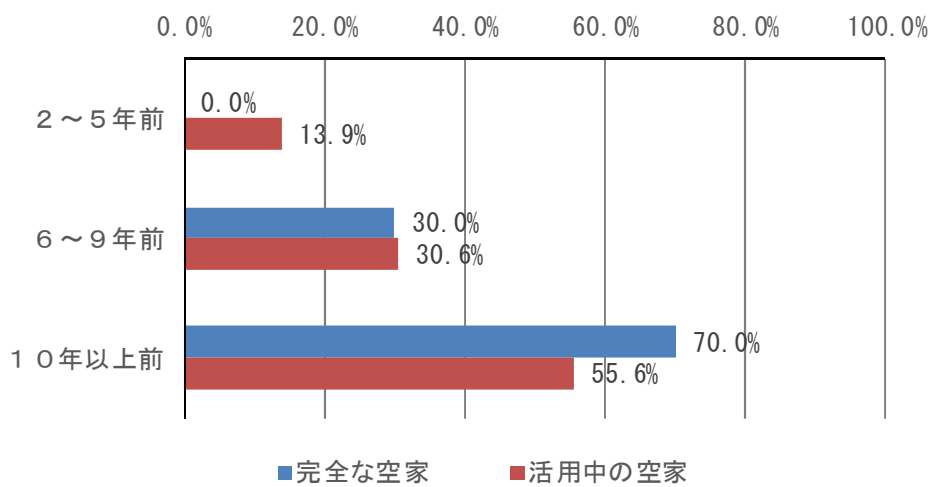


図 2-4-4 今の使用状況になった時期×立地状況×利用区分

【問5】建物の築年時期 SN₂=338

(建物の築年時期)

耐震基準の見直し(昭和56年)が行われる以前の「昭和46年～昭和55年」に建てられた建物が42.6%で最も多く、「昭和45年以前」を加えると、約7割弱の建物が旧耐震基準で建てられていることがうかがえます。

表 2-5-1 建物の築年時期

建物の築年時期	回答数	割合
昭和45年以前	80	23.7%
昭和46年～昭和55年	144	42.6%
昭和56年以降	87	25.7%
築年時期不明	27	8.0%

} 旧耐震
新耐震

※築年時期不明：回答が不明なものと同回答

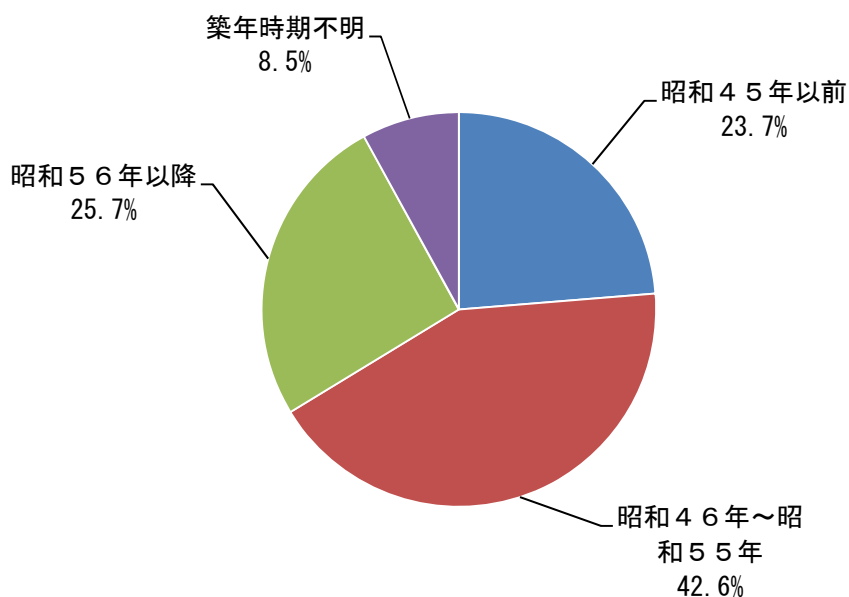


図 2-5-1 建物の築年時期

(建物の築年時期×利用区分) SN₂₋₂=336

「完全な空家」では、昭和 55 年以前の旧耐震で建てられた建物が約 8 割を占めています。

表 2-5-2 建物の築年時期×利用区分

築年時期 利用区分	昭和45年以前		昭和46年～昭和55年		昭和56年以降	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	28	24.8%	62	54.9%	19	16.8%
活用中の空家	52	23.3%	82	36.8%	68	30.5%

築年時期 利用区分	築年時期不明		合計	
	件数	割合	件数	割合
完全な空家	4	3.5%	113	100.0%
活用中の空家	21	9.4%	223	100.0%

※利用状況が無回答（2件）除く

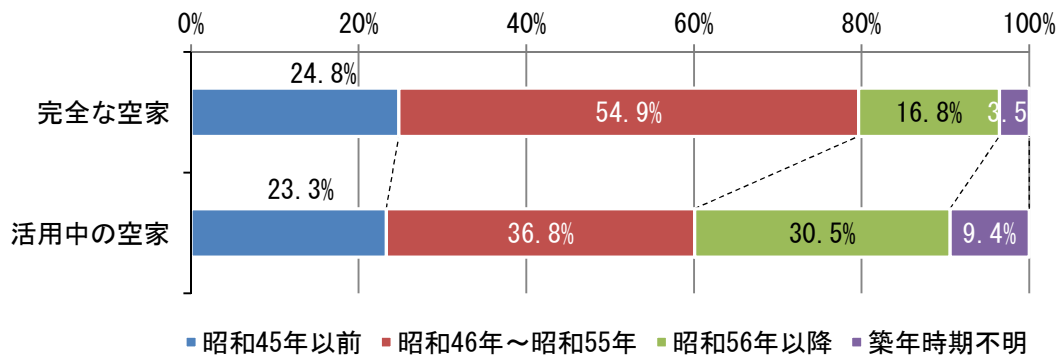


図 2-5-2 建物の築年時期×利用区分

(今の使用状況になった時期×立地状況) SN₂=338

各地域ともに、旧耐震基準で建てられた建物の比率が高くなっていますが、住宅団地では、特に「昭和46年～昭和55年」に建てられた建物が多くなっています。

表 2-5-3 今の使用状況になった時期×立地状況

利用区分	昭和45年以前		昭和46年～昭和55年		昭和56年以降	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	45	45.5%	30	30.3%	19	19.2%
住宅団地	11	6.0%	102	56.0%	50	27.5%
その他の地域	24	42.1%	12	21.1%	18	31.6%

利用区分	築年時期不明		合計	
	件数	割合	件数	割合
既成市街地	5	5.1%	99	100.0%
住宅団地	19	10.4%	182	100.0%
その他の地域	3	5.3%	57	100.0%

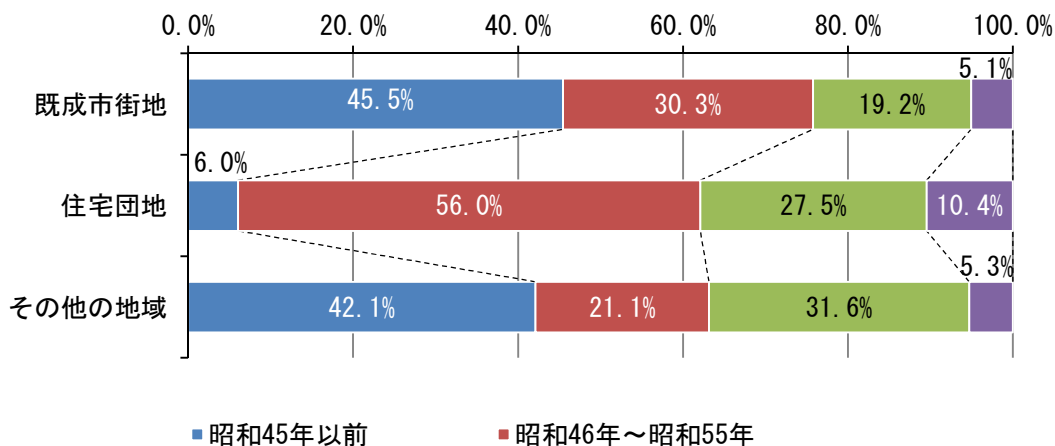


図 2-5-3 今の使用状況になった時期×立地状況

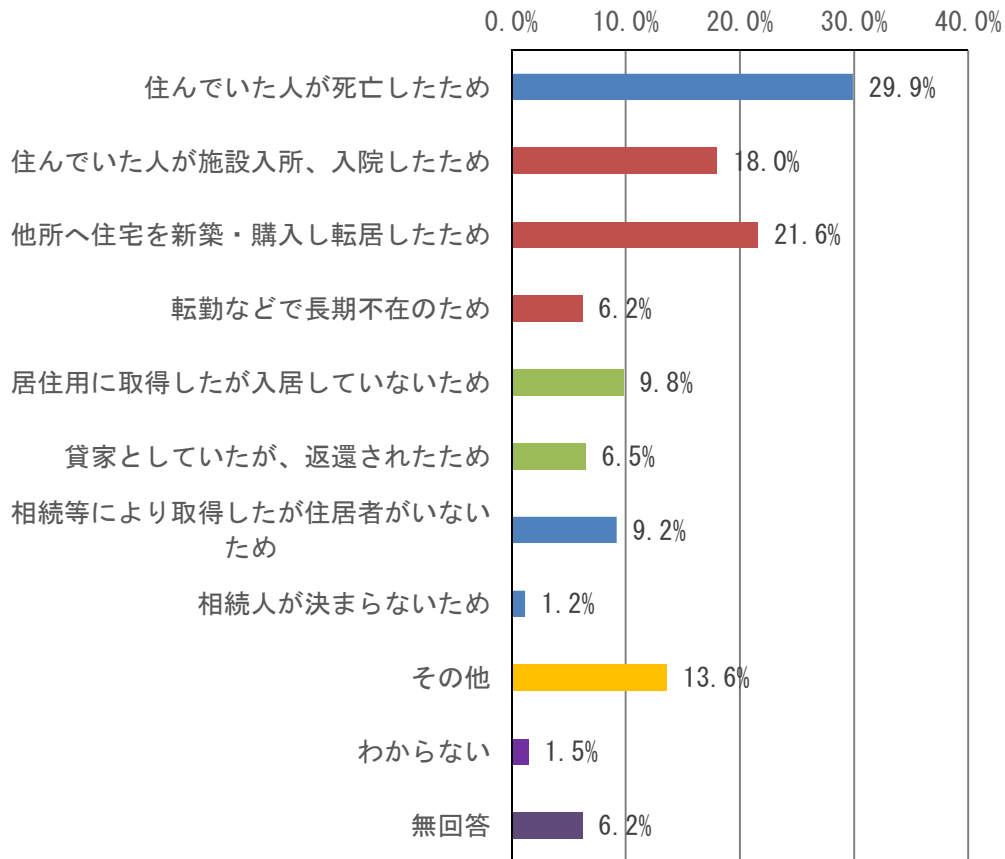
【問6】今の使用状況になった理由（複数回答） MN₁=418、SN₂=338

（今の使用状況になった理由）

「住んでいた人が死亡したため」が29.9%で最も多く、次いで「他所へ住宅を新築・購入したため」が21.4%、「住んでいた人が施設、入院したため」が17.9%で多くなっています。

表 2-6-1 今の使用状況になった理由

今の使用状況になった理由(複数回答)	回答数	割合
住んでいた人が死亡したため	101	29.9%
住んでいた人が施設入所、入院したため	61	18.0%
他所へ住宅を新築・購入し転居したため	73	21.6%
転勤などで長期不在のため	21	6.2%
居住用に取得したが入居していないため	33	9.8%
貸家としていたが、返還されたため	22	6.5%
相続等により取得したが住居者がいないため	31	9.2%
相続人が決まらないため	4	1.2%
その他	46	13.6%
わからない	5	1.5%
無回答	21	6.2%



※グラフの色分けの意味合いは、次ページの発生要因区分別を参照

図 2-6-1 今の使用状況になった理由

(今の使用状況になった理由_発生要因区分別) SN₂=338

複数回答を精査し、今の使用状況になった理由を単数回答として、「居住者の死亡及び相続関連」、「居住者が他所へ移動したため」、「その他の理由」、「理由不明」の4つに大きく分類しました。

結果的には、「居住者が他所へ移動したため」が40.2%と約4割を占め、「居住者の死亡及び相続関連」の34.3%より若干割合が高くなっています。

表 2-6-2 今の使用状況になった理由（発生要因）

今の使用状況になった理由	回答数	割合
居住者の死亡及び相続関連	116	34.3%
居住者が他所へ移動したため	136	40.2%
その他の理由	58	17.2%
理由不明	28	8.3%

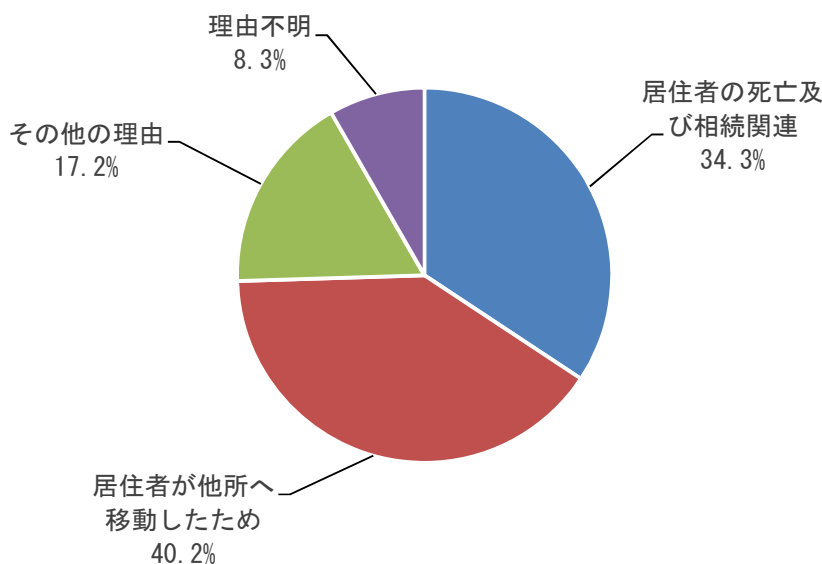


図 2-6-2 今の使用状況になった理由（発生要因）

※4：発生要因区分

居住者の死亡及び相続関連

「住んでいた人が死亡したため」、「相続等により取得したが住居人がいないため」、「相続人が決まらないため」、「その他」のうち、記述から居住者の死亡及び相続関連と判断したもの

居住者が他所へ移動したため

「住んでいた人が施設入所、入院したため」、「他所へ住宅を新築・購入し転居したため」、「転勤などで長期不在のため」、「その他」のうち、記述から居住者が他所へ移動したためと判断したもの

その他の理由

「居住用を取得したが入居していないため」、「貸家としていたが、返還されたため」、「その他」のうち、記述から死亡・相続、転居が理由ではないと判断したもの

理由不明

「わからない」、「無回答」

なお、複数回答のうち、発生要因区分が複数にまたがる回答については、「居住者の死亡及び相続関連」、「居住者が他所へ移動したため」、「その他」の順で優先するものとししました。

(発生要因×利用区分) SN₂₋₂=336

「完全な空家」では、「居住者の死亡及び相続関連」が要因となり、空家になる場合が多く、一方、「活用中の空家」では、「居住者が他所へ移動したため」による要因が高くなっています。

表 2-6-3 発生要因×利用区分

発生要因 利用区分	居住者の死亡及び相続関連		居住者が他所へ移動したため		その他の理由	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	50	44.2%	43	38.1%	14	12.4%
活用中の空家	66	29.6%	93	41.7%	44	19.7%

発生要因 利用区分	理由不明		合計	
	件数	割合	件数	割合
完全な空家	6	5.3%	113	100.0%
活用中の空家	20	9.0%	223	100.0%

※利用状況が無回答（2件）除く

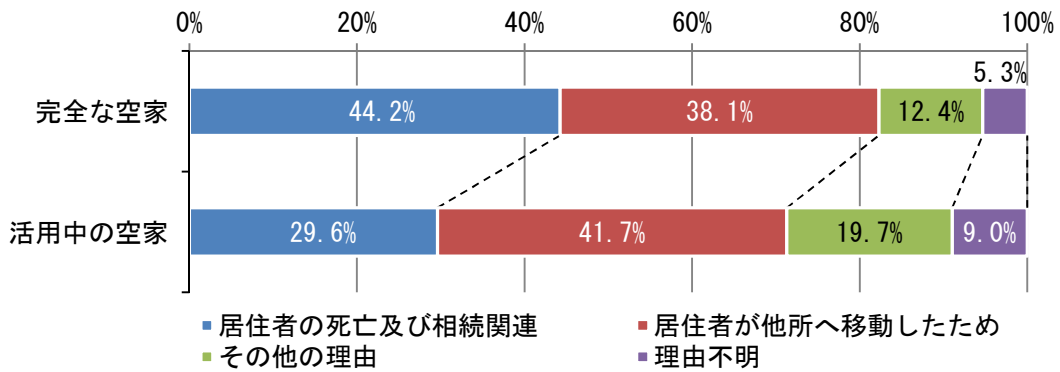


図 2-6-3 発生要因×利用区分

(発生要因×立地状況) SN₂=338

「住宅団地」では、「居住者の死亡及び相続関連」で空家となる傾向は低くなっています。一方、「既成市街地」と「その他の地域」では、「居住者の死亡及び相続関連」と「居住者が他所へ移動したため」が同程度となっています。

表 2-6-4 発生要因×立地状況

利用区分	時期	居住者の死亡及び相続関連		居住者が他所へ移動したため		その他の理由	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地		42	42.4%	40	40.4%	13	13.1%
住宅団地		53	29.1%	74	40.7%	38	20.9%
その他の地域		21	36.8%	22	38.6%	7	12.3%

利用区分	時期	理由不明		合計	
		件数	割合	件数	割合
既成市街地		4	4.0%	99	100.0%
住宅団地		17	9.3%	182	100.0%
その他の地域		7	12.3%	57	100.0%

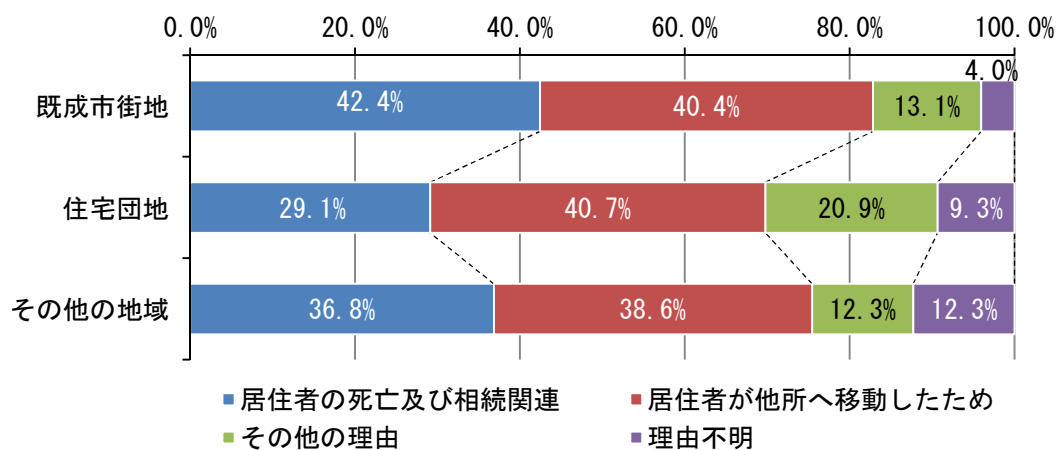


図 2-6-4 発生要因×立地状況

【問7】維持・管理の頻度 SN₂=338

(維持・管理の頻度)

「月に数回程度」が 44.6%で最も多く、次いで「年に数回程度」が 34.0%となっています。「管理は行っていない」については、5.6%と1割に満たされていません。

表 2-7-1 維持・管理の頻度

維持・管理の頻度	回答数	割合
月に数回程度実施	151	44.7%
年に数回程度実施	116	34.3%
数年に1回程度実施	5	1.5%
その他	22	6.5%
管理は行っていない	19	5.6%
頻度不明	25	7.4%

※頻度不明：回答が不明なものと同無回答

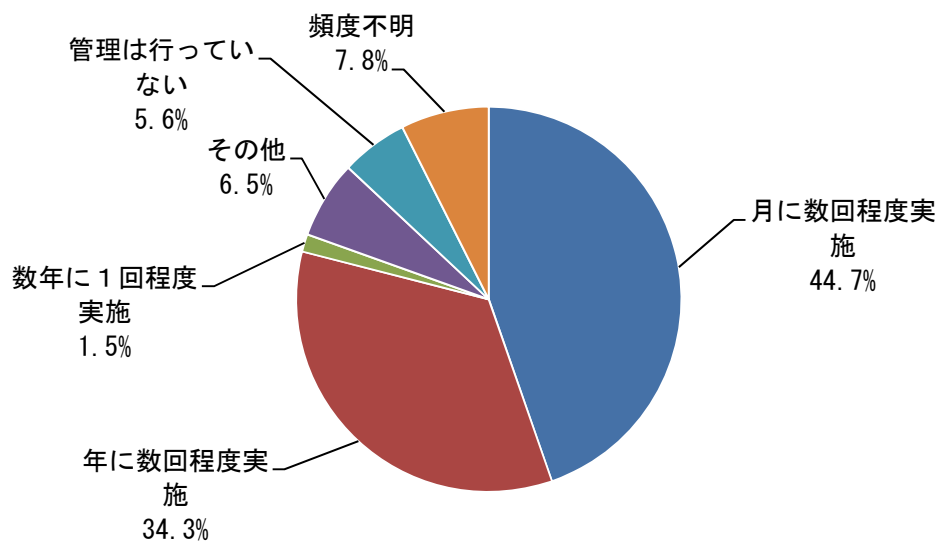


図 2-7-1 維持・管理の頻度

(維持・管理の頻度×利用区分) SN₂₋₂=336

「活用中の空家」では、「月に数回程度」と管理の頻度は高く、「完全な空家」になると、「年に数回程度」が最も多くなり、管理の頻度が下がる傾向にあります。

表 2-7-2 維持・管理の頻度×利用区分

利用区分	月に数回程度実施		年に数回程度実施		数年に1回程度実施		その他	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	32	28.3%	57	50.4%	3	2.7%	4	3.5%
活用中の空家	119	53.4%	59	26.5%	2	0.9%	18	8.1%

利用区分	頻度は行っていない		頻度不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	11	9.7%	6	5.3%	113	100.0%
活用中の空家	8	3.6%	17	7.6%	223	100.0%

※利用状況が無回答（2件）除く

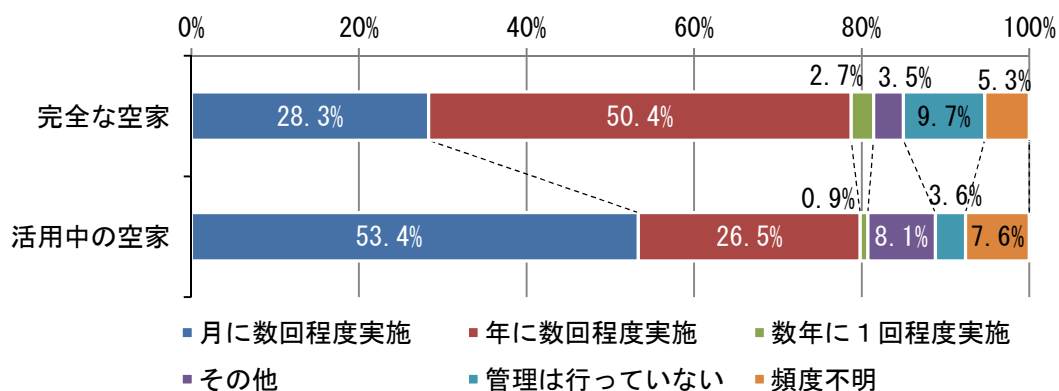


図 2-7-2 維持・管理の頻度×利用区分

(維持管理の頻度×立地状況) SN₂=338

「既成市街地」と「その他の地域」では、「月に数回程度」が最も高くなっていますが、「住宅団地」では、「月に数回程度」の割合は低くなっており、管理の頻度も他の地域に比べ、低くなっていることがうかがえます。

表 2-7-3 維持・管理の頻度×立地状況

立地状況	月に数回程度実施		年に数回程度実施		数年に1回程度実施		その他	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	49	49.5%	33	33.3%	2	2.0%	5	5.1%
住宅団地	72	39.6%	71	39.0%	2	1.1%	13	7.1%
その他の地域	30	52.6%	12	21.1%	1	1.8%	4	7.0%

立地状況	管理は行っていない		頻度不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	5	5.1%	5	5.1%	99	100.0%
住宅団地	10	5.5%	14	7.7%	182	100.0%
その他の地域	4	7.0%	6	10.5%	57	100.0%

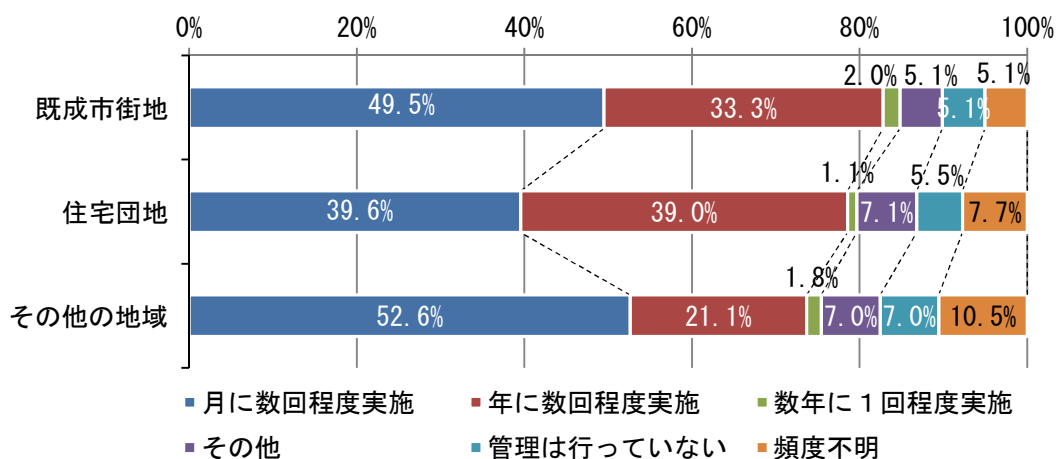


図 2-7-3 維持・管理の頻度×立地状況

(維持管理の頻度×所有者の居住地) SN₂=338

「市内在住」では「月に数回程度」が最も多く、管理の頻度が高いことがうかがえます。「県外在住」についても「月に数回程度」の割合が高く、特に「活用中の空家」では「月に数回程度」の割合がより高くなっています。

「完全な空家」では、所有者の居住地との距離に比例して維持管理の頻度が下がる傾向にあります。

表 2-7-4 維持・管理の頻度×所有者の居住地

所有者の居住地	月に数回程度実施		年に数回程度実施		数年に1回程度実施		その他	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市内在住	77	51.0%	41	27.2%	2	1.3%	8	5.3%
県内市外在住	12	34.3%	16	45.7%	0	0.0%	4	11.4%
県外在住	62	40.8%	59	38.8%	3	2.0%	10	6.6%

所有者の居住地	管理は行っていない		頻度不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市内在住	7	4.6%	16	10.6%	151	100.0%
県内市外在住	0	0.0%	3	8.6%	35	100.0%
県外在住	12	7.9%	6	3.9%	152	100.0%

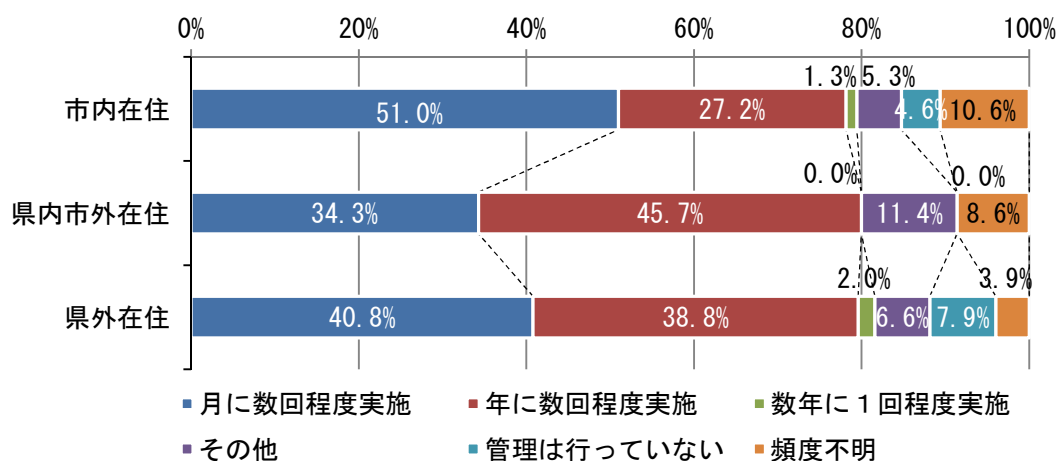


図 2-7-4 維持・管理の頻度×所有者の居住地

表 2-7-5 維持・管理の頻度×所有者の居住地（利用区分別）

（完全な空家）

所有者の居住地	月に数回程度実施		年に数回程度実施		数年に1回程度実施		その他	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市内在住	18	36.0%	23	46.0%	1	2.0%	1	2.0%
県内市外在住	4	30.8%	8	61.5%	0	0.0%	0	0.0%
県外在住	10	20.0%	26	52.0%	2	4.0%	3	6.0%

所有者の居住地	管理は行っていない		頻度不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市内在住	4	8.0%	3	6.0%	50	100.0%
県内市外在住	0	0.0%	1	7.7%	13	100.0%
県外在住	7	14.0%	2	4.0%	50	100.0%

（活用中の空家）

所有者の居住地	月に数回程度実施		年に数回程度実施		数年に1回程度実施		その他	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市内在住	59	59.6%	18	18.2%	1	1.0%	7	7.1%
県内市外在住	8	36.4%	8	36.4%	0	0.0%	4	18.2%
県外在住	52	51.0%	33	32.4%	1	1.0%	7	6.9%

所有者の居住地	管理は行っていない		頻度不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市内在住	3	3.0%	11	11.1%	99	100.0%
県内市外在住	0	0.0%	2	9.1%	22	100.0%
県外在住	5	4.9%	4	3.9%	102	100.0%

※SN₃：【問7】において、「5. 管理は行っていない」を選択した方を除く

【問8】維持・管理の内容（複数回答） MN₂=853、SN₃=319

（維持・管理の内容）

「庭の手入れ、草刈り、剪定」が85.0%で最も多く、管理を行っている人のうち、8割強の人が行っています。次いで、「空気の入替え」65.5%、「家屋の手入れ」57.1%となっており、上位の3項目を含め同時に複数の管理内容を行っている人が多くなっています。

表 2-8-1 維持・管理の内容

維持・管理の内容(複数回答)	回答数	割合
庭の手入れ、草刈り、剪定	271	85.0%
空気の入替え	209	65.5%
家屋の手入れ	182	57.1%
破損個所の小修繕	101	31.7%
仏壇等の管理	50	15.7%
無回答	24	7.5%
その他	16	5.0%

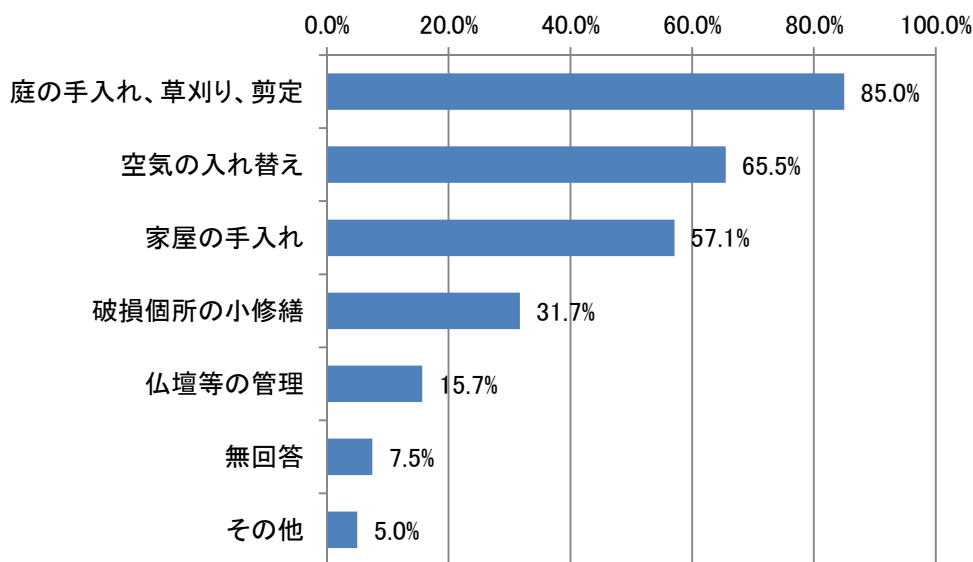


図 2-8-1 維持・管理の内容

(維持・管理の内容×利用区分) MN₂₋₂=832

「活用中の空家」では、「家屋の手入れ」や「破損個所の小修繕」といった建物本体の維持管理の割合が高くなっていますが、「完全な空家」では、「庭の手入れや草刈り、剪定」の割合が高くなり、建物本体の維持管理の割合は低くなっています。

表 2-8-2 維持・管理の内容×利用区分

維持・管理の内容 利用区分	家屋の手入れ		破損個所の小修繕		庭の手入れ、草刈り、剪定		仏壇等の管理	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	39	18.2%	19	8.9%	88	41.1%	9	4.2%
活用中の空家	143	23.1%	82	13.3%	183	29.6%	41	6.6%

維持・管理の内容 利用区分	空気の入れ替え		その他		無回答		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	54	25.2%	4	1.9%	1	0.5%	214	100.0%
活用中の空家	155	25.1%	12	1.9%	2	0.3%	618	100.0%

※利用状況が無回答（2件）除く

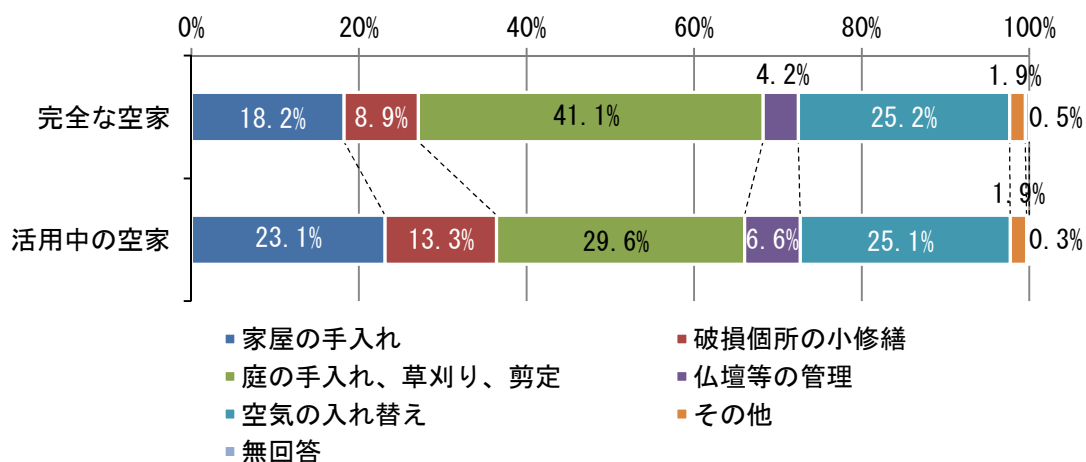


図 2-8-2 維持・管理の内容×利用区分

※SN₄：【問8】において、「3. 庭の手入れ、草刈り、剪定」を選択した方を除く

【問9】建物の管理の方法 SN₄=248

(建物の管理の方法)

建物本体の管理については、「本人もしくは親族が管理している」が91.1%で最も多く、約9割の人が本人もしくは身近な人で管理しています。

表 2-9-1 建物の管理の方法

建物の管理の方法	回答数	割合
本人もしくは家族、親族が管理している	226	91.1%
業者に委託している	11	4.4%
個人(他人)に委託している	6	2.4%
方法不明	5	2.1%

※方法不明：回答が不明なものと同無回答

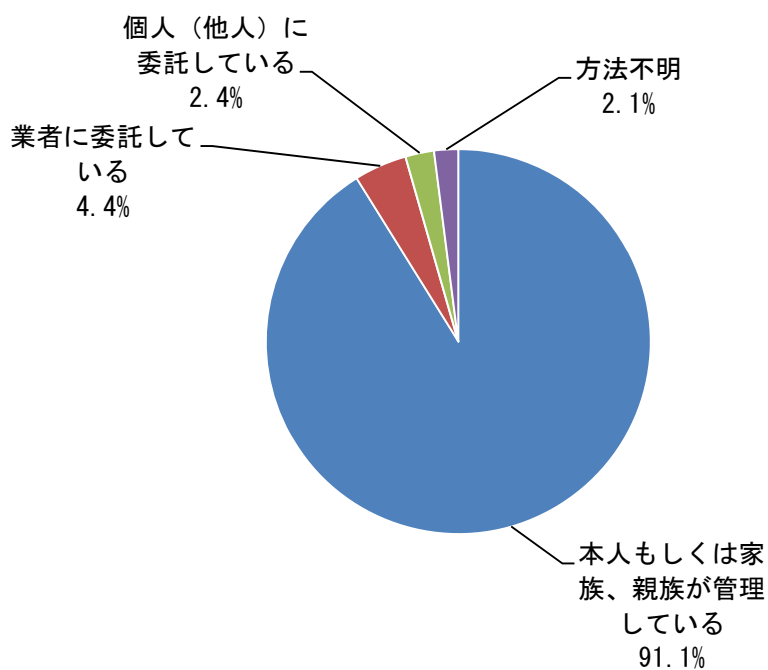


図 2-9-1 建物の管理の方法

(維持・管理の方法×利用区分) SN₄=248

「完全な空家」、「活用中の空家」ともに、「本人もしくは家族、親族が管理している」傾向が強くなっています。

表 2-9-2 維持・管理の方法×利用区分

管理の方法 利用区分	本人もしくは家族、親族が管理している		業者に委託している		個人(他人)に委託している	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	60	90.9%	4	6.1%	0	0.0%
活用中の空家	166	91.2%	7	3.8%	6	3.3%

管理の方法 利用区分	方法不明		合計	
	件数	割合	件数	割合
完全な空家	2	3.0%	66	100.0%
活用中の空家	3	1.6%	182	100.0%

※利用区分が無回答(2件)除く

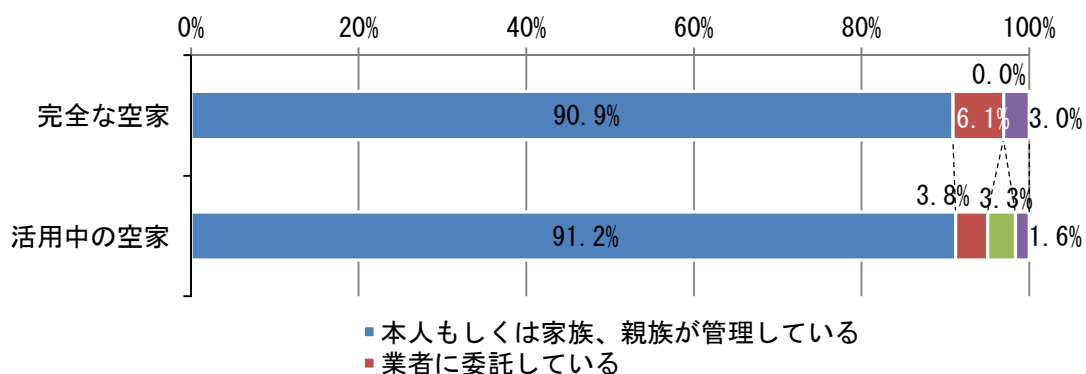


図 2-9-2 維持・管理の方法×利用区分

※SN₅：【問8】において、「3. 庭の手入れ、草刈り、剪定」を選択した方のみ

【問10】建物敷地の庭木等の管理方法 SN₅=271

(建物敷地の庭木等の管理方法)

建物敷地の庭木等については、「本人もしくは親族が管理している」が62.0%と最も多くなっていますが、建物本体の管理方法に比べ、割合は低くなっています。一方で「業者に委託している」が19.6%と割合が多くなっています。

表 2-10-1 建物敷地の庭木等の管理方法

建物敷地の庭木等の管理方法	回答数	割合
本人もしくは家族、親族が管理している	168	62.0%
業者に委託している	53	19.6%
個人(他人)に委託している	11	4.1%
地元自治会に委託している	1	0.4%
方法不明	38	13.9%

※方法不明：複数回答により回答不明なものと同無回答

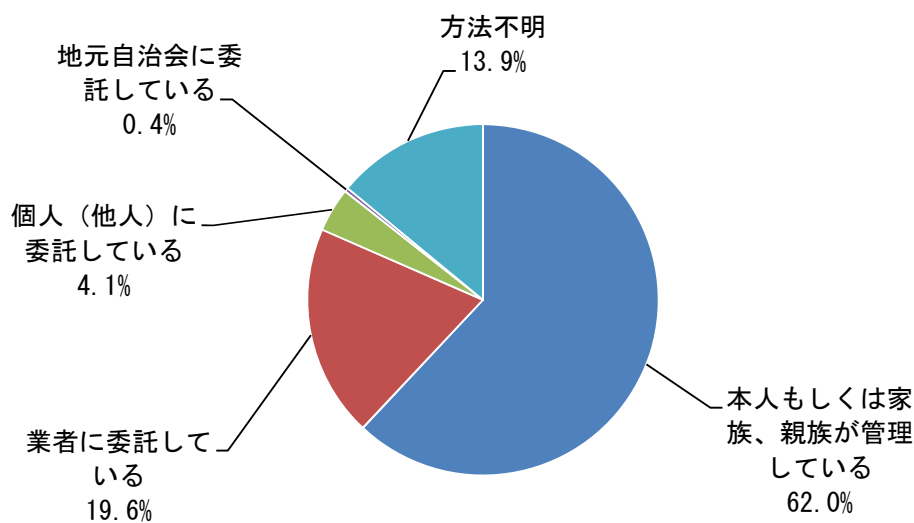


図 2-10-1 建物敷地の庭木等の管理方法

(建物敷地の庭木等の管理の方法×利用区分) SN₅=271

「完全な空家」では、「業者に委託」する割合が高くなっています。

表 2-10-2 庭木等の管理の方法×利用区分

庭木等の 管理の方法 利用区分	本人もしくは家族、親 族が管理している		業者に委託している		個人(他人)に委託している	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	55	61.8%	24	27.0%	1	1.1%
活用中の空家	113	62.1%	29	15.9%	10	5.5%

庭木等の 管理の方法 利用区分	地元自治会に委託している		方法不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	1	1.1%	8	9.0%	89	100.0%
活用中の空家	0	0.0%	30	16.5%	182	100.0%

※利用区分が無回答(2件)除く

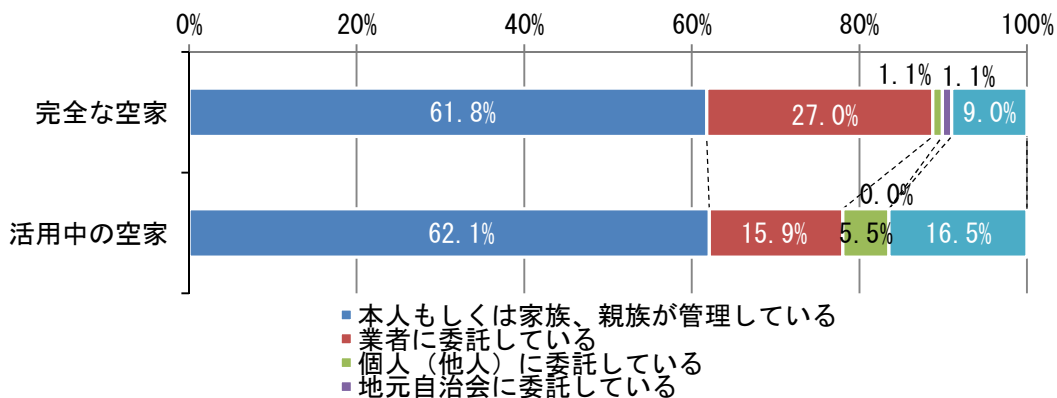


図 2-10-2 庭木等の管理の方法×利用区分

【問 1 1】 維持・管理上の問題点（複数回答） MN₃=574、SN₃=319

（維持管理上の問題点）

「管理の手間が大変」が 30.1%で最も多く、「身体的・年齢的な問題」の 20.1%を加えると多くの方が自身による問題を抱えていることがわかります。また、「現住所から対象住宅までの距離が遠い」が 29.2%と 3 割程度あり、普段住んでいる居住地と空家の所在地との距離が維持・管理に影響を与えている面も見受けられます。

「対象の建物があることによって、近隣の人に迷惑をかけていないか不安」とする回答も 25.4%あり、空家が周辺に与える影響についても懸案要素となっている一方で、問題は「特にない」とした人も 25.7%います。

表 2-11-1 維持・管理上の問題点

維持・管理上の問題点(複数回答)	回答数	割合
管理の手間が大変	96	30.1%
現住所から対象住宅までの距離が遠い	93	29.2%
特にない	82	25.7%
対象の建物があることによって、近隣の人に迷惑をかけていないか不安	81	25.4%
身体的・年齢的な問題	64	20.1%
管理の後継者も含めて、自分以外で管理できる人がいない	36	11.3%
空家の取り扱いに関して、どこに相談すればよいか分からない	32	10.0%
管理の委託料が高い	14	4.4%
管理を頼める相手を探すのが大変	11	3.4%
権利等が複数のため管理の責任者が決まっていない	2	0.6%
その他	22	6.9%
回答不明	41	12.9%

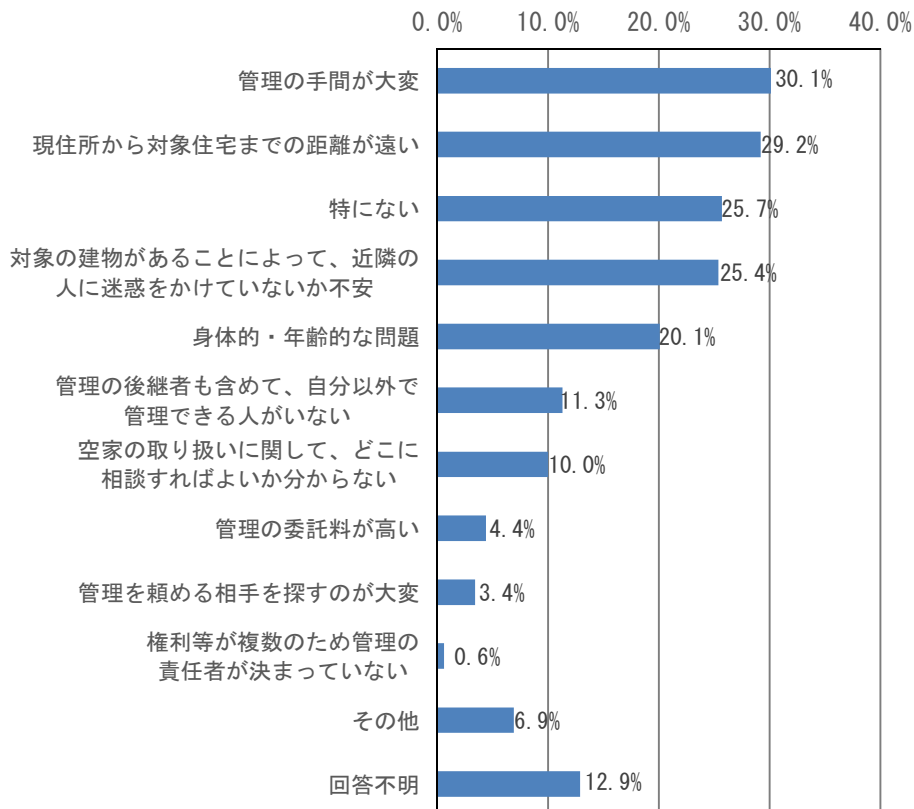


図 2-11-1 維持・管理上の問題点

(維持・管理上の問題（上位5つ）×利用区分）

維持・管理上の問題で上位5つの要因について分析してみると、「完全な空家」では「対象の建物があることによって、近隣の人に迷惑をかけていないか不安」の割合が「活用中の空家」と比較すると高く、一方、「活用中の空家」では「特にない」とする割合が「完全な空家」と比較すると高くなっています。

表 2-11-2 維持・管理上の問題（上位5つ）×利用区分

維持・管理上の問題点	管理の手間が大変		身体的・年齢的な問題		現住所から対象住宅までの距離が遠い	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	38	25.5%	24	16.1%	33	22.1%
活用中の空家	58	21.9%	40	15.1%	60	22.6%

維持・管理上の問題点	対象の建物があることによって、近隣の人に迷惑をかけていないか不安		特にない		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	38	25.5%	16	10.7%	149	100.0%
活用中の空家	41	15.5%	66	24.9%	265	100.0%

※利用状況が無回答（2件）除く

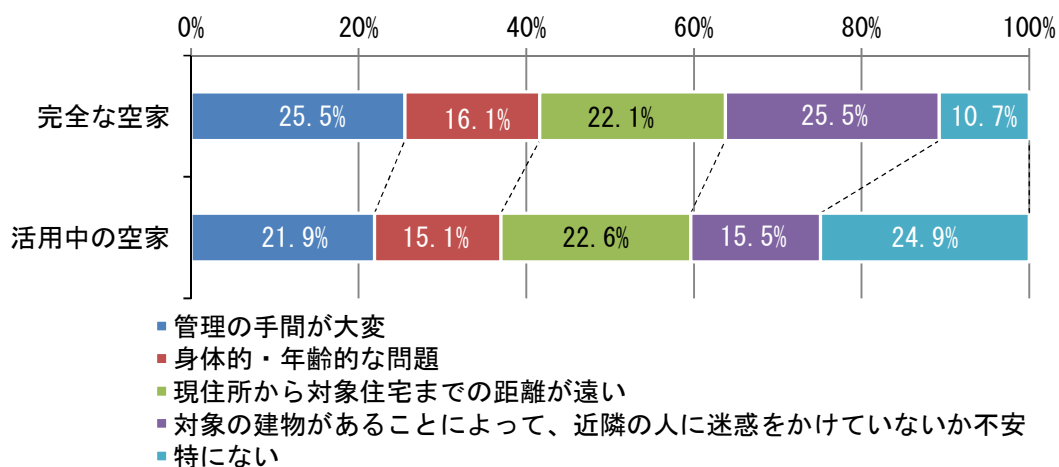


図 2-11-2 維持・管理上の問題（上位5つ）×利用区分

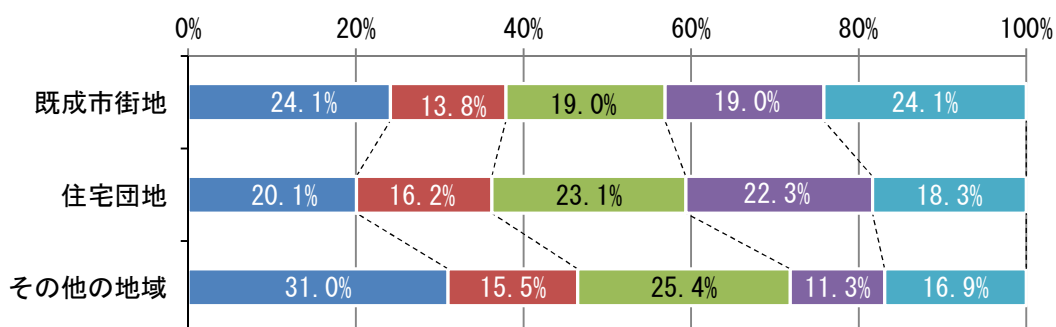
(維持・管理上の問題 (上位5つ) × 立地状況)

「既成市街地」では「特にない」の割合が他の地域に比べて高く、「その他の地域」では、「管理の手間が大変」の割合が他の地域に比べ高くなっています。

表 2-11-3 維持・管理上の問題 (上位5つ) × 立地状況

維持・管理上の 問題点	管理の手間が大変		身体的・年齢的な問題		現住所から対象住宅ま での距離が遠い	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
立地状況						
既成市街地	28	24.1%	16	13.8%	22	19.0%
住宅団地	46	20.1%	37	16.2%	53	23.1%
その他の地域	22	31.0%	11	15.5%	18	25.4%

維持・管理上の 問題点	対象の建物があることによ って、近隣の人に迷惑を かけていないか不安		特にない		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
立地状況						
既成市街地	22	19.0%	28	24.1%	116	100.0%
住宅団地	51	22.3%	42	18.3%	229	100.0%
その他の地域	8	11.3%	12	16.9%	71	100.0%



- 管理の手間が大変
- 身体的・年齢的な問題
- 現住所から対象住宅までの距離が遠い
- 対象の建物があることによって、近隣の人に迷惑をかけていないか不安
- 特にない

図 2-11-3 維持・管理上の問題 (上位5つ) × 立地状況

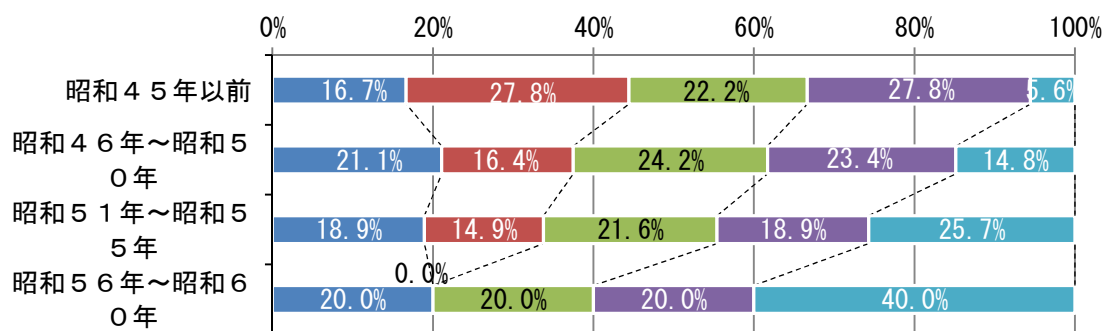
(維持・管理上の問題（上位5つ）×住宅団地の造成時期別）

造成時期が古くなるにつれ、周辺への迷惑に対する不安を持っている割合が高くなっています。比例するように、問題は「特にない」とする割合は低くなっています。

表 2-11-4 維持・管理上の問題（上位5つ）×住宅団地の造成時期

維持・管理上の 問題点 団地造成時期	管理の手間が大変		身体的・年齢的な問題		現住所から対象住宅までの距離が遠い	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	3	16.7%	5	27.8%	4	22.2%
昭和46年～昭和50年	27	21.1%	21	16.4%	31	24.2%
昭和51年～昭和55年	14	19.2%	11	15.1%	16	21.9%
昭和56年～昭和60年	2	20.0%	0	0.0%	2	20.0%
昭和61年以降	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

維持・管理上の 問題点 団地造成時期	対象の建物があることによって、近隣の人に迷惑をかけていないか不安		特にない		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	5	27.8%	1	5.6%	18	100.0%
昭和46年～昭和50年	30	23.4%	19	14.8%	128	100.0%
昭和51年～昭和55年	14	19.2%	18	24.7%	73	100.0%
昭和56年～昭和60年	2	20.0%	4	40.0%	10	100.0%
昭和61年以降	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



- 管理の手間が大変
- 身体的・年齢的な問題
- 現住所から対象住宅までの距離が遠い
- 対象の建物があることによって、近隣の人に迷惑をかけていないか不安
- 特にない

※昭和61年以降については、上位5つの問題はなく、「管理を頼める相手を探すのが大変」、「管理の委託料が高い」がそれぞれ1件、「その他」が2件の計4件の回答がありました。

図 2-11-4 維持・管理上の問題（上位5つ）×住宅団地の造成時期

(維持・管理上の問題 (上位5つ) ×所有者の居住地) MN₄=417

「市内在住」では「特にない」の割合が他の地域に比べて高く、「県外在住」では、「現住所から対象住宅までの距離が遠い」の割合が特になくなっていきます。

表 2-11-5 維持・管理上の問題 (上位5つ) ×所有者の居住地

維持・管理上の 問題点	管理の手間が大変		身体的・年齢的な問題		現住所から対象住宅までの 距離が遠い	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
所有者の居住地						
市内在住	41	26.3%	24	15.4%	16	10.3%
県内市外在住	11	22.4%	9	18.4%	8	16.3%
県外在住	44	20.9%	31	14.7%	69	32.7%

維持・管理上の 問題点	対象の建物があることによっ て、近隣の人に迷惑をかけて いないか不安		特にない		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
所有者の居住地						
市内在住	30	19.2%	45	28.8%	156	100.0%
県内市外在住	10	20.4%	11	22.4%	49	100.0%
県外在住	41	19.4%	26	12.3%	211	100.0%

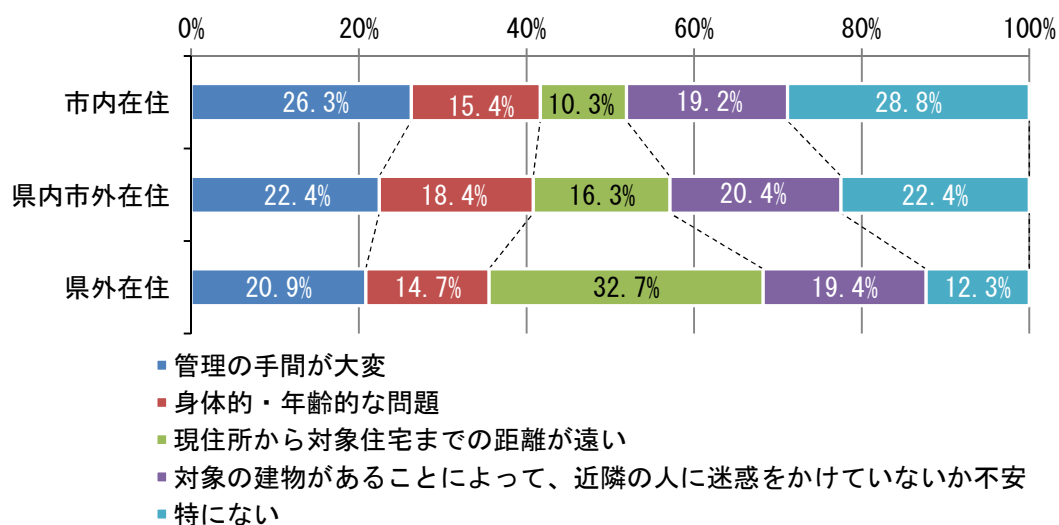


図 2-11-5 維持・管理上の問題 (上位5つ) ×所有者の居住地

【問 1 2】 今後の活用方法（複数回答） MN₄=520、SN₂=338

（今後の活用方法）

「売却したい」が 34.9%で最も多く、次いで、「セカンドハウス、物置、倉庫として使用する」が 24.6%、「予定なし（現状のまま）」が 21.9%となっています。

表 2-12-1 今後の活用方法

今後の活用方法(複数回答)	回答数	割合
売却したい	118	34.9%
セカンドハウス、物置、倉庫として使用する	83	24.6%
自分または家族が住む	54	16.0%
賃貸として運用したい	49	14.5%
相続し、子や孫などに利用してもらう	43	12.7%
解体して土地を利用したい	39	11.5%
無償でもよいので手離したい	12	3.6%
予定なし(現状のまま)	74	21.9%
その他	30	8.9%
無回答	18	5.3%

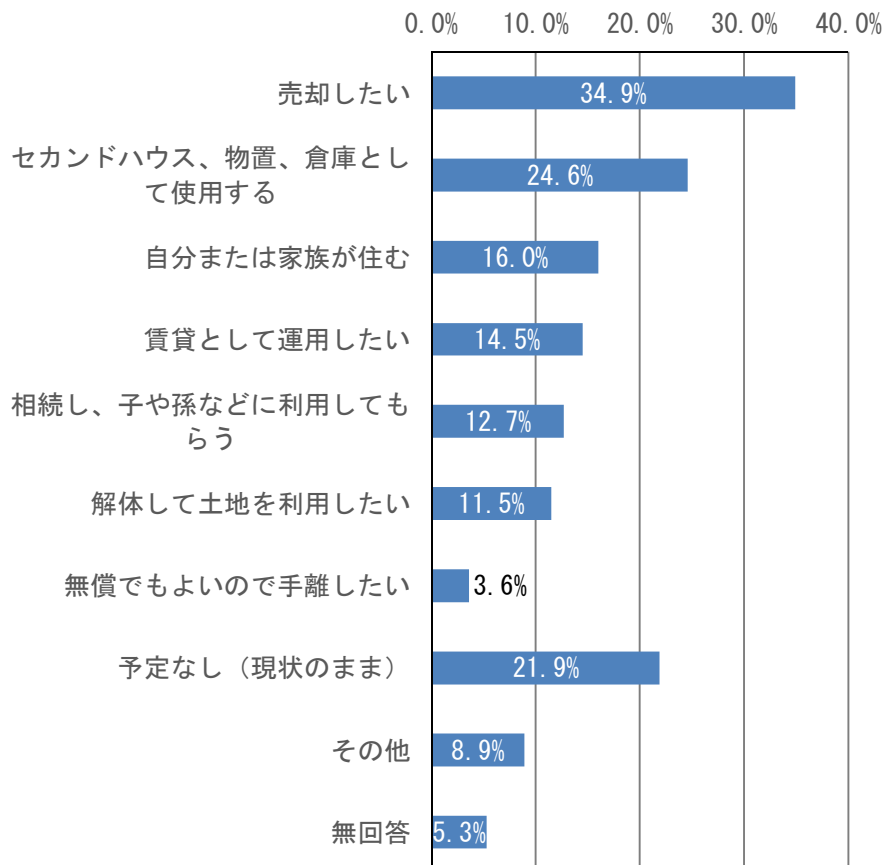


図 2-12-1 今後の活用方法

(今後の活用方法×利用区分) MN₃=516

「完全な空家」では、「無償でもよいので手離したい」を含め、「売却したい」の割合が高くなっています。「活用中の空家」では、「自分または家族が住む」や「セカンドハウス、物置、倉庫として使用する」の割合が高く、今後も活用する意向が高いといえます。

表 2-12-2 今後の活用方法×利用区分

今後の活用方法 利用区分	自分または家族が 住む		セカンドハウス、物置、 倉庫として使用する		解体して土地を利 用したい		相続し、子や孫など に利用してもらう	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	11	7.0%	6	3.8%	17	10.8%	11	7.0%
活用中の空家	43	12.0%	77	21.4%	22	6.1%	32	8.9%

今後の活用方法 利用区分	賃貸として運用した い		売却したい		無償でもよいので 手離したい		予定なし(現状のま ま)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	18	11.5%	60	38.2%	9	5.7%	15	9.6%
活用中の空家	31	8.6%	58	16.2%	3	0.8%	59	16.4%

今後の活用方法 利用区分	その他		無回答		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	9	5.7%	1	0.6%	157	100.0%
活用中の空家	21	5.8%	13	3.6%	359	100.0%

※利用状況が無回答(2件) 除く

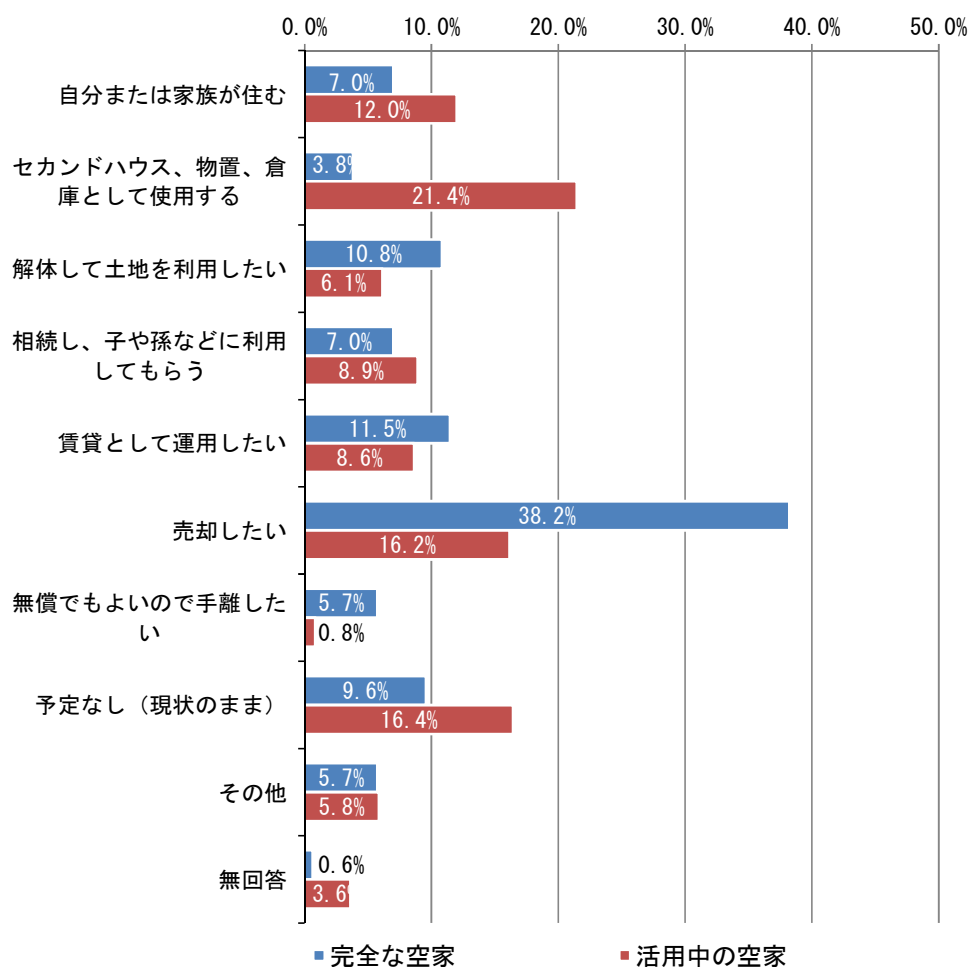


図 2-12-2 今後の活用方法×利用区分

(今後の活用方法×立地状況) MN₄=518

「住宅団地」では、他の地域に比べ、「売却」意向が強くなっている。「その他の地域」においては、「セカンドハウス、物置、倉庫として使用する」とする割合が高くなっています。

表 2-12-3 今後の活用方法×立地状況

今後の活用方法 立地状況	自分または家族が 住む		セカンドハウス、物置、 倉庫として使用する		解体して土地を利 用したい		相続し、子や孫など に利用してもらう	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	16	10.9%	26	17.7%	16	10.9%	12	8.2%
住宅団地	31	11.0%	37	13.2%	16	5.7%	23	8.2%
その他の地域	7	7.8%	20	22.2%	7	7.8%	8	8.9%

今後の活用方法 立地状況	賃貸として運用した い		売却したい		無償でもよいので 手離したい		予定なし(現状のま ま)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	14	9.5%	27	18.4%	3	2.0%	20	13.6%
住宅団地	32	11.4%	75	26.7%	3	1.1%	38	13.5%
その他の地域	3	3.3%	16	17.8%	6	6.7%	16	17.8%

今後の活用方法 立地状況	その他		無回答		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	10	6.8%	3	2.0%	147	100.0%
住宅団地	16	5.7%	10	3.6%	281	100.0%
その他の地域	4	4.4%	3	3.3%	90	100.0%

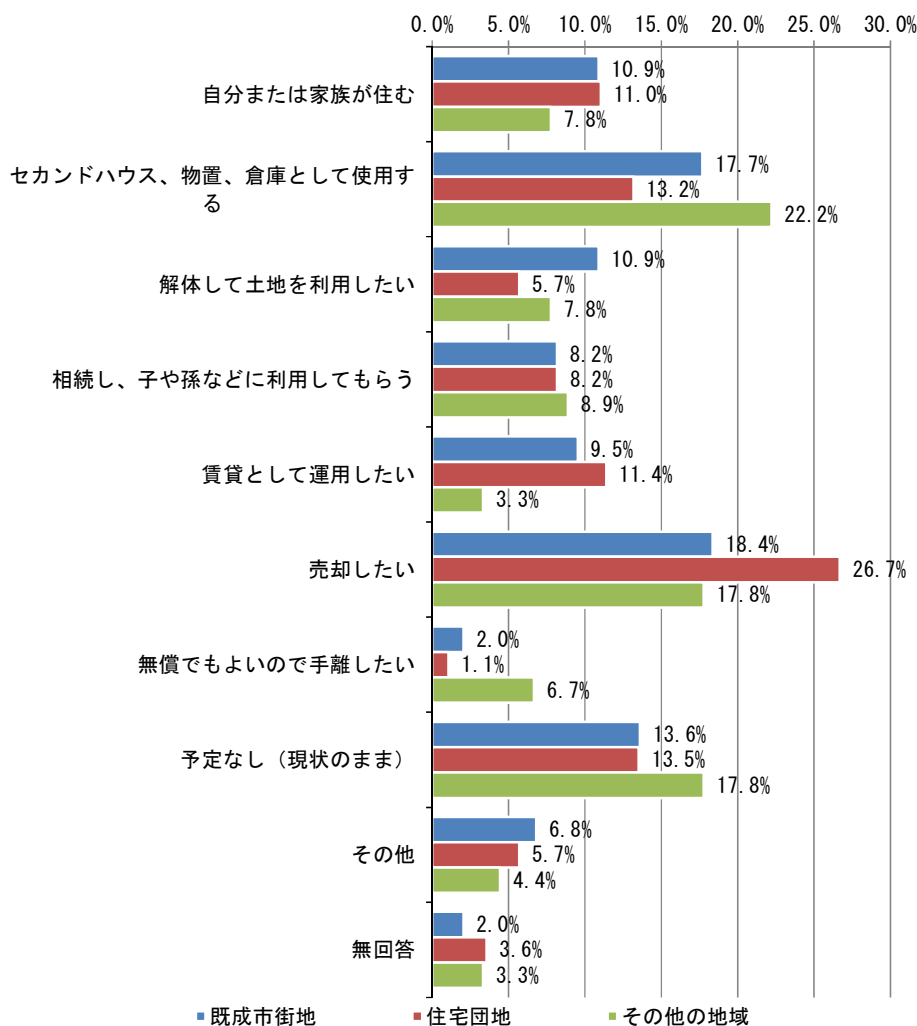


図 2-12-3 今後の活用方法×立地状況

(今後の活用方法×住宅団地の造成時期) MN₄=518

「住宅団地」での「売却」意向については、最も古い「昭和45年以前」で4割程度を占めており、「昭和46年～昭和50年」、「昭和51年～昭和55年」でも2割以上となっています。「昭和56年～昭和60年」の造成では、「売却」意向は比較的低く、「現状のままで予定なし」の割合が高くなっています。

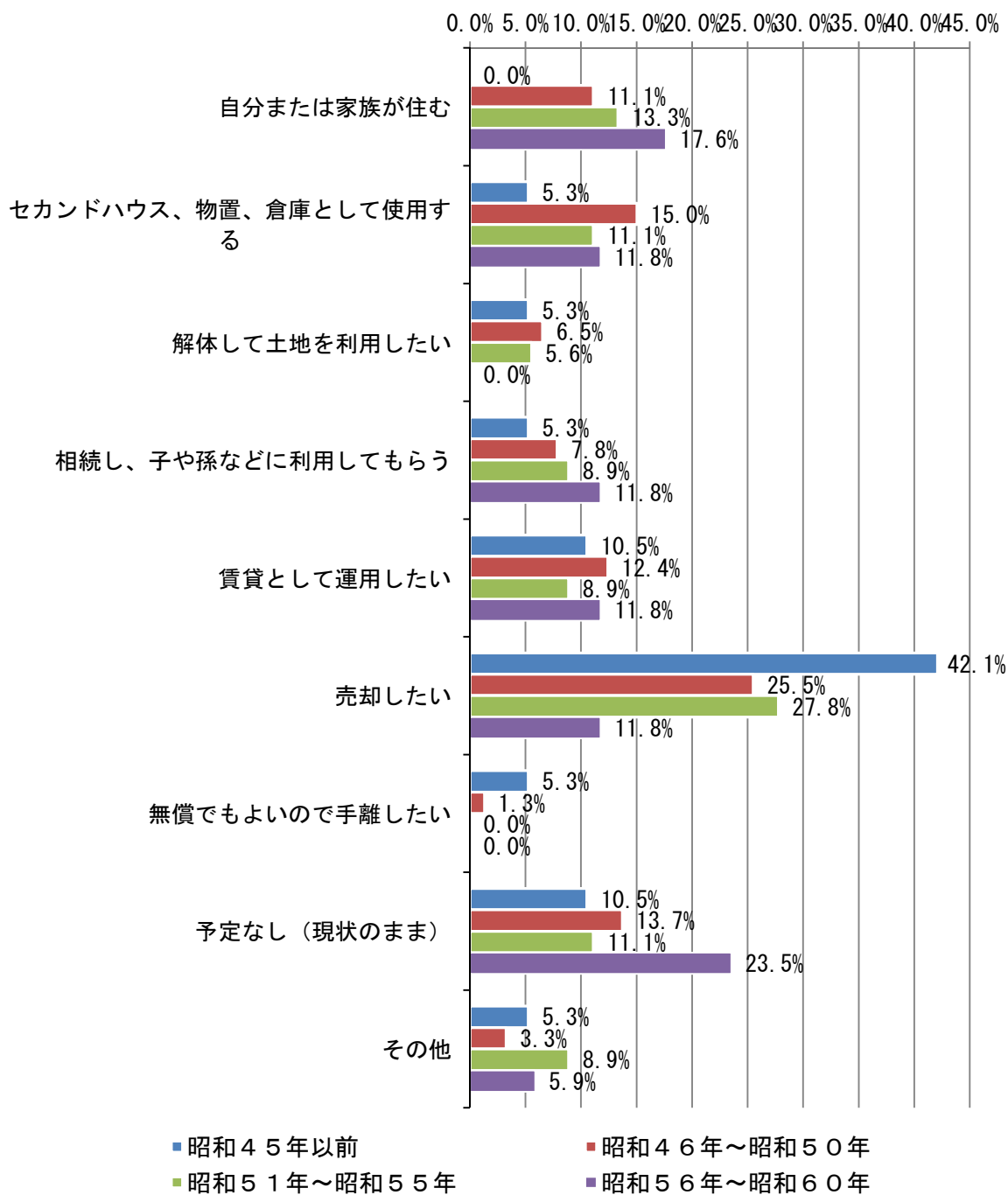
「自分または家族が住む」については、年代が古くなるにつれ、割合が低くなり、「昭和45年以前」では意向がなくなります。一方で「解体して土地を利用したい」という意向は、昭和55年以前の物件について一定程度意向がありますが、昭和56年以降の物件では意向がなくなります。

表 2-12-4 今後の活用方法×住宅団地の造成時期

今後の活用方法 住宅団地の造成時期	自分または家族が住む		セカンドハウス、物置、倉庫として使用する		解体して土地を利用したい		相続し、子や孫などに利用してもらう	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	0	0.0%	1	5.3%	1	5.3%	1	5.3%
昭和46年～昭和50年	17	11.2%	23	15.1%	10	6.6%	12	7.9%
昭和51年～昭和55年	11	12.4%	10	11.2%	5	5.6%	8	9.0%
昭和56年～昭和60年	3	18.8%	2	12.5%	0	0.0%	2	12.5%
昭和61年以降	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%

今後の活用方法 住宅団地の造成時期	賃貸として運用したい		売却したい		無償でもよいので手離したい		予定なし(現状のまま)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	2	10.5%	8	42.1%	1	5.3%	2	10.5%
昭和46年～昭和50年	19	12.5%	39	25.7%	2	1.3%	21	13.8%
昭和51年～昭和55年	8	9.0%	25	28.1%	0	0.0%	10	11.2%
昭和56年～昭和60年	2	12.5%	2	12.5%	0	0.0%	4	25.0%
昭和61年以降	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%

今後の活用方法 住宅団地の造成時期	その他		無回答		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	1	5.3%	2	10.5%	19	100.0%
昭和46年～昭和50年	5	3.3%	4	2.6%	152	100.0%
昭和51年～昭和55年	8	9.0%	4	4.5%	89	100.0%
昭和56年～昭和60年	1	6.3%	0	0.0%	16	100.0%
昭和61年以降	1	20.0%	0	0.0%	5	100.0%



※母数の少ない「昭和61年以降」及び「無回答」は除く

図 2-12-4 今後の活用方法×住宅団地の造成時期

(今後の活用方法×築年時期) MN₄=518

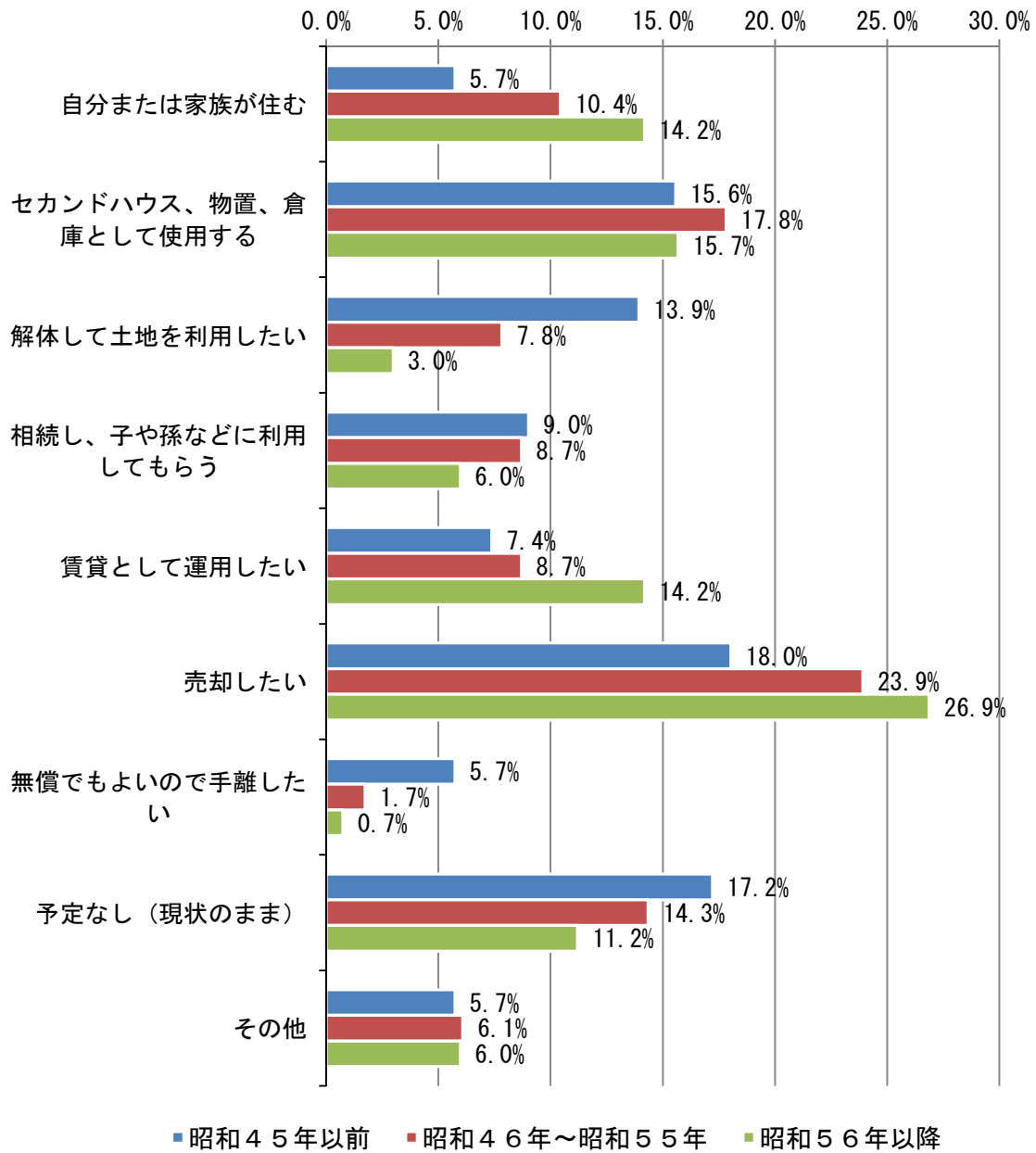
築年時期が新しくなるほど、「自分または家族が住む」や「セカンドハウス、物置、倉庫として使用する」の割合が高くなる傾向にあります。同時に「売却したい」も高くなる傾向にあり、建物が良い状態で早く売却したいという考えが現れていると考えられます。

表 2-12-5 今後の活用方法×築年時期

今後の活用方法 築年時期	自分または家族が 住む		セカンドハウス、物置、 倉庫として使用する		解体して土地を利 用したい		相続し、子や孫など に利用してもらう	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	7	5.7%	19	15.6%	17	13.9%	11	9.0%
昭和46年～昭和55年	24	10.4%	41	17.8%	18	7.8%	20	8.7%
昭和56年以降	19	14.2%	21	15.7%	4	3.0%	8	6.0%
築年時期不明	4	12.5%	2	6.3%	0	0.0%	4	12.5%

今後の活用方法 築年時期	賃貸として運用した い		売却したい		無償でもよいので 手離したい		予定なし(現状のま ま)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	9	7.4%	22	18.0%	7	5.7%	21	17.2%
昭和46年～昭和55年	20	8.7%	55	23.9%	4	1.7%	33	14.3%
昭和56年以降	19	14.2%	36	26.9%	1	0.7%	15	11.2%
築年時期不明	1	3.1%	5	15.6%	0	0.0%	5	15.6%

今後の活用方法 築年時期	その他		無回答		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	7	5.7%	2	1.6%	122	100.0%
昭和46年～昭和55年	14	6.1%	1	0.4%	230	100.0%
昭和56年以降	8	6.0%	3	2.2%	134	100.0%
築年時期不明	1	3.1%	10	31.3%	32	100.0%



※「築年時期不明」及び「無回答」は除く

図 2-12-5 今後の活用方法×築年時期

(今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法①)

今の使用状況になった時期が「2～5年前」と比較的新しい建物について、「住宅団地」、「既成市街地」とともに「売却したい」という意向が強くなっていますが、「住宅団地」ではその傾向が特に強くなっています。

表 2-12-6 今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法（複数回答）

(今の使用状況になった時期：2～5年前)

今後の活用方法	自分または家族が住む		セカンドハウス、物置、倉庫として使用する		解体して土地を利用したい		相続し、子や孫などに利用してもらう	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	11	13.8%	13	16.3%	6	7.5%	7	8.8%
住宅団地	18	12.2%	19	12.9%	11	7.5%	14	9.5%
その他の地域	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

今後の活用方法	賃貸として運用したい		売却したい		無償でもよいので手離したい		予定なし(現状のまま)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	5	6.3%	16	20.0%	3	3.8%	11	13.8%
住宅団地	19	12.9%	42	28.6%	0	0.0%	16	10.9%
その他の地域	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%

今後の活用方法	その他		無回答		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	7	8.8%	1	1.3%	80	100.0%
住宅団地	7	4.8%	1	0.7%	147	100.0%
その他の地域	1	20.0%	1	20.0%	5	100.0%

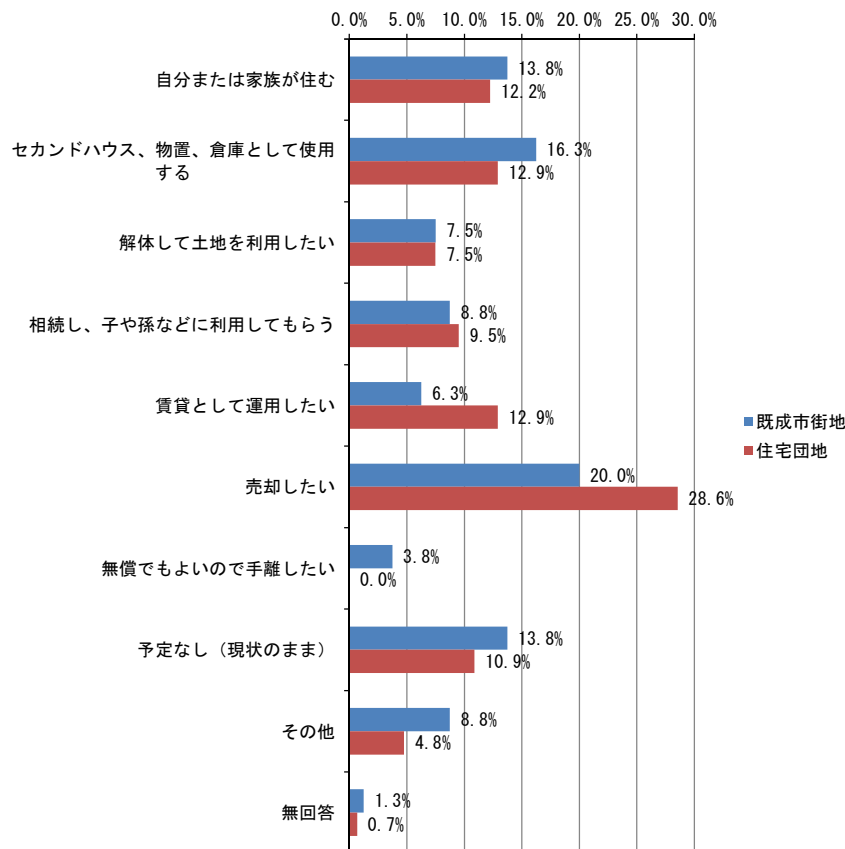


図 2-12-6 今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法（複数回答）

※母数の少ない「その他の地域」は除く

(今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法②)

今の使用状況になった時期が「6～9年前」では、「住宅団地」において「売却したい」という意向が特に強くなっていますが、「既成市街地」「その他の地域」では「セカンドハウス、物置、倉庫として使用する」という意向が強くなっています。

表 2-12-7 今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法（複数回答）

(今の使用状況になった時期：6～9年前)

今後の活用方法	自分または家族が住む		セカンドハウス、物置、倉庫として使用する		解体して土地を利用したい		相続し、子や孫などに利用してもらう	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	3	11.1%	6	22.2%	3	11.1%	3	11.1%
住宅団地	4	6.7%	7	11.7%	3	5.0%	3	5.0%
その他の地域	2	8.7%	6	26.1%	0	0.0%	3	13.0%

今後の活用方法	賃貸として運用したい		売却したい		無償でもよいので手離したい		予定なし(現状のまま)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	4	14.8%	4	14.8%	0	0.0%	3	11.1%
住宅団地	9	15.0%	19	31.7%	2	3.3%	8	13.3%
その他の地域	1	4.3%	3	13.0%	2	8.7%	4	17.4%

今後の活用方法	その他		無回答		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	1	3.7%	0	0.0%	27	100.0%
住宅団地	5	8.3%	0	0.0%	60	100.0%
その他の地域	2	8.7%	0	0.0%	23	100.0%

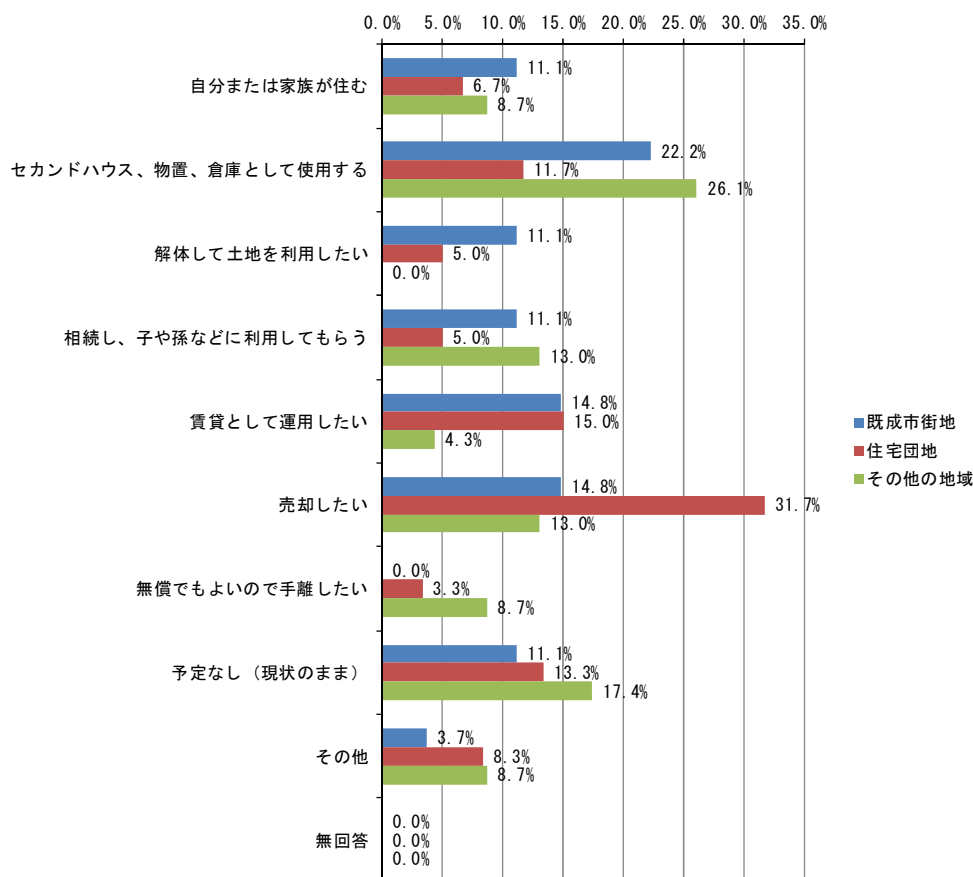


図 2-12-7 今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法（複数回答）

(今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法③)

今の使用状況になった時期が「10年以上前」と比較的年月が経っている建物について、「既成市街地」では「解体して土地を利用したい」という意向が強くなっていますが、「住宅団地」では逆に低くなっています。

表 2-12-8 今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法（複数回答）

(今の使用状況になった時期：10年以上前)

今後の活用方法 立地状況	自分または家族が 住む		セカンドハウス、物置、 倉庫として使用する		解体して土地を利 用したい		相続し、子や孫など に利用してもら	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	2	6.1%	7	21.2%	7	21.2%	1	3.0%
住宅団地	8	14.0%	11	19.3%	2	3.5%	6	10.5%
その他の地域	5	11.1%	9	20.0%	5	11.1%	3	6.7%

今後の活用方法 立地状況	賃貸として運用した い		売却したい		無償でもよいので 手離したい		予定なし(現状のま ま)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	3	9.1%	6	18.2%	0	0.0%	6	18.2%
住宅団地	2	3.5%	11	19.3%	1	1.8%	11	19.3%
その他の地域	1	2.2%	9	20.0%	4	8.9%	8	17.8%

今後の活用方法 立地状況	その他		無回答		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	0	0.0%	1	3.0%	33	100.0%
住宅団地	4	7.0%	1	1.8%	57	100.0%
その他の地域	1	2.2%	0	0.0%	45	100.0%

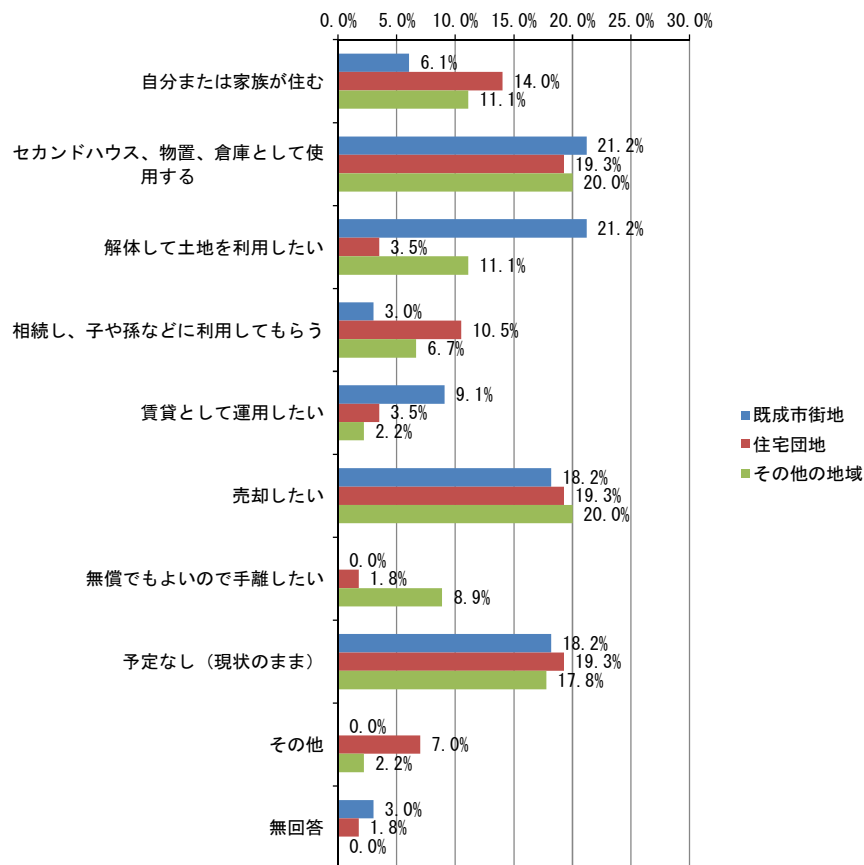


図 2-12-8 今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法（複数回答）

(今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法（売却意向）)

今後の活用方法の中で意向の強い「売却したい」について、立地状況別で空家等になった時期を件数で比較すると、「住宅団地」において、「2～5年前」に空家等になったものが特に多くなっています。

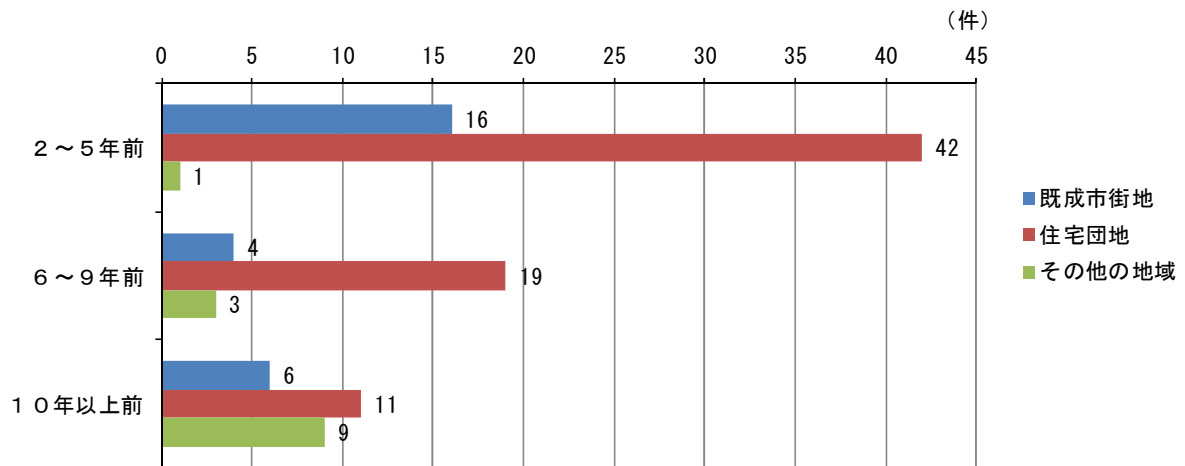


図 2-12-9 今の使用状況になった時期×立地状況×今後の活用方法（売却意向）

【問 1 3】 解体除却の予定 SN₂=338

(解体除却の予定)

「除却するつもりはない」が 45.9%で最も多くなっていますが、「除却」の意向についても、「除却を今後考えたい」の 24.0%、「除却の予定あり」の 2.7%を合わせると 3 割程度あります。

表 2-13-1 解体除却の予定

解体除却の予定	回答数	割合
除却を予定している	9	2.7%
除却を今後考えたい	81	24.0%
除却するつもりはない	155	45.9%
その他	57	16.9%
予定不明	36	10.5%

※予定不明：回答が不明なものと同無回答

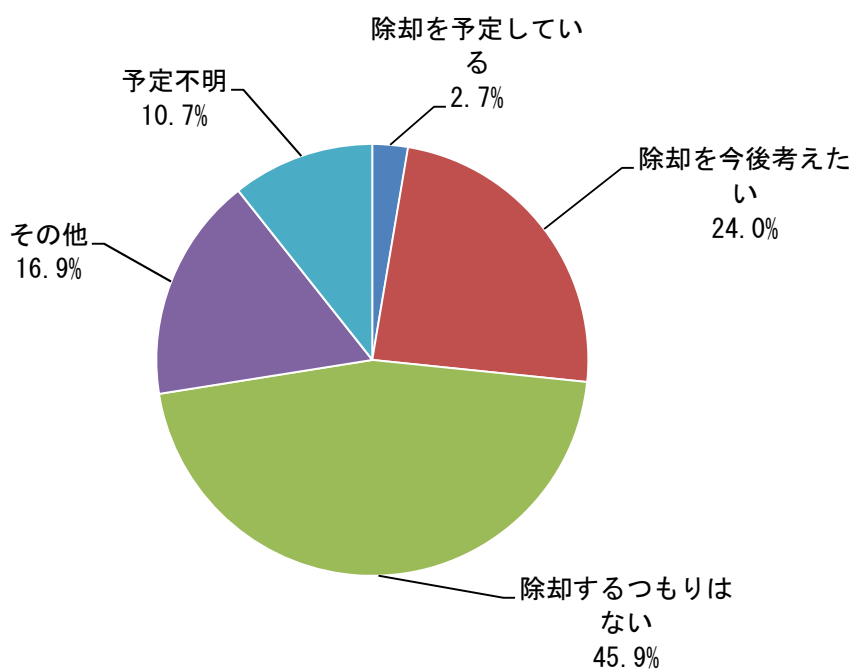


図 2-13-1 解体除却の予定

(解体除却予定×利用区分) SN₂₋₂=336

「活用中の空家」については、「除却するつもりはない」が半数以上を占めており、今後の活用の意向などをみると、今後も自分で活用するか、そのままの状態ですぐ売却したいと考えていることがうかがえます。

表 2-13-2 解体除却予定×利用区分

解体除却予定 利用区分	除却を予定している		除却を今後考えたい		除却するつもりはない	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	7	6.2%	33	29.2%	34	30.1%
活用中の空家	2	0.9%	48	21.5%	121	54.3%

解体除却予定 利用区分	その他		予定不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	29	25.7%	10	8.8%	113	100.0%
活用中の空家	28	12.6%	24	10.8%	223	100.0%

※利用状況が無回答（2件）除く

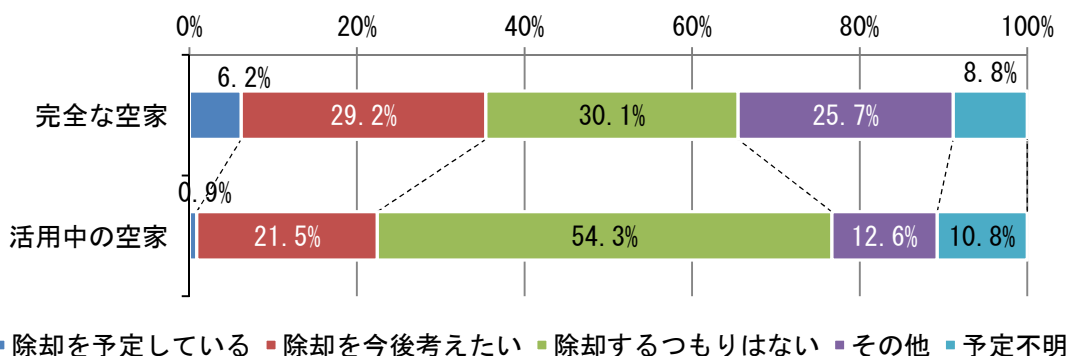


図 2-13-2 解体除却予定×利用区分

(解体除却予定×立地状況) SN₂=338

「住宅団地」では、他の地域に比べ、除却意向が低くなっています。

表 2-13-3 解体除却予定×立地状況

解体除却予定 利用区分	除却を予定している		除却を今後考えたい		除却するつもりはない	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	3	3.0%	33	33.3%	37	37.4%
住宅団地	3	1.6%	35	19.2%	90	49.5%
その他の地域	3	5.3%	13	22.8%	28	49.1%

解体除却予定 利用区分	その他		予定不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地	22	22.2%	4	4.0%	99	100.0%
住宅団地	30	16.5%	24	13.2%	182	100.0%
その他の地域	5	8.8%	8	14.0%	57	100.0%

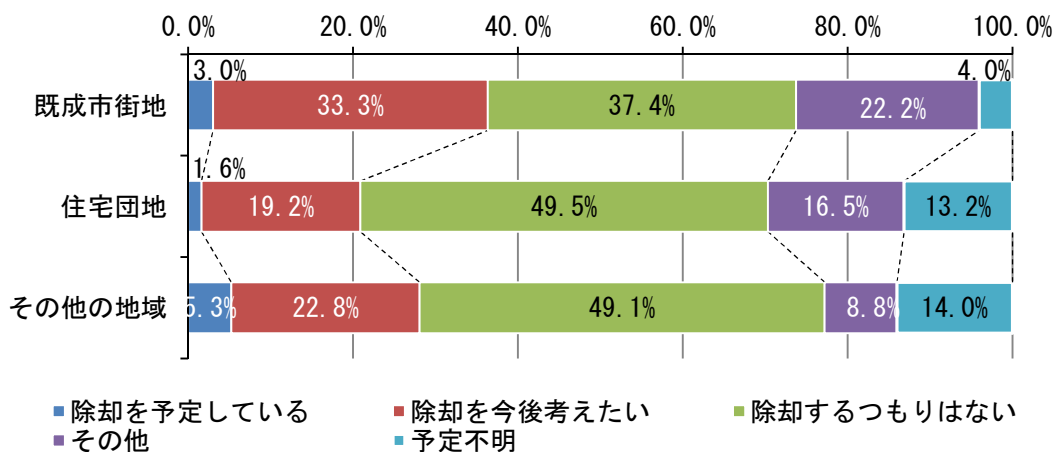


図 2-13-3 解体除却予定×立地状況

(解体除却予定×住宅団地の造成時期) SN₂=338

「除却を予定している」、「除却を考えたい」といった除却意向については、昭和56年以前の物件では、それぞれの年代で2割程度あるが、昭和56年以降については、「昭和61年以降」の物件で1件あるのみで、ほぼないに等しくなっています。

表 2-13-4 解体除却予定×住宅団地の造成時期

解体除却予定 住宅団地の造成時期	除却を予定している		除却を今後考えたい		除却するつもりはない	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	0	0.0%	3	23.1%	2	15.4%
昭和46年～昭和50年	2	2.1%	18	18.9%	49	51.6%
昭和51年～昭和55年	1	1.7%	13	21.7%	28	46.7%
昭和56年～昭和60年	0	0.0%	0	0.0%	10	90.9%
昭和61年以降	0	0.0%	1	33.3%	1	33.3%

解体除却予定 住宅団地の造成時期	その他		予定不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	3	23.1%	5	38.5%	13	100.0%
昭和46年～昭和50年	17	17.9%	9	9.5%	95	100.0%
昭和51年～昭和55年	10	16.7%	8	13.3%	60	100.0%
昭和56年～昭和60年	0	0.0%	1	9.1%	11	100.0%
昭和61年以降	0	0.0%	1	33.3%	3	100.0%

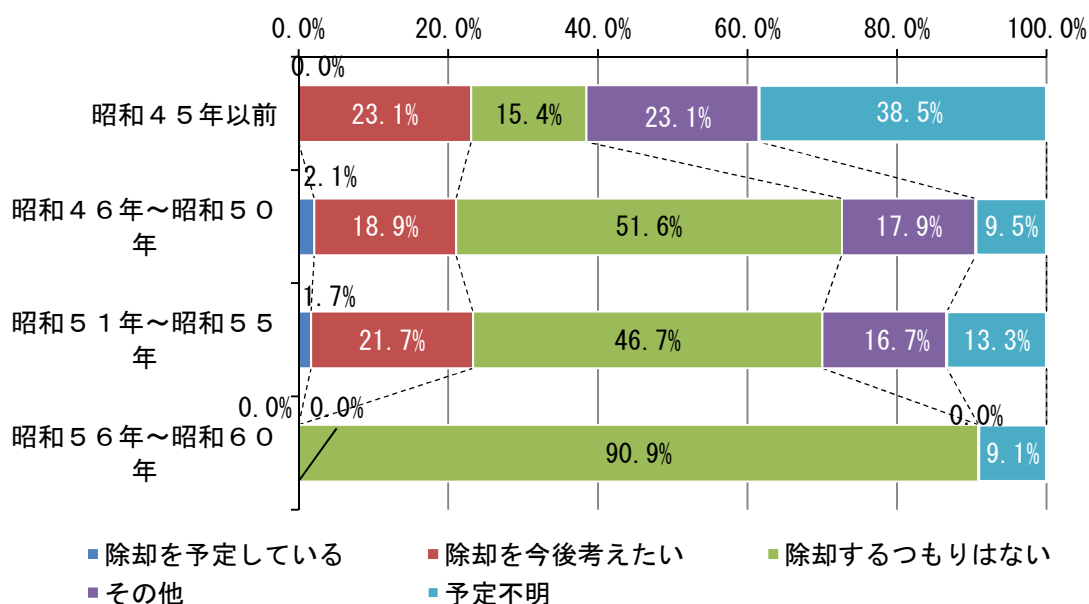


図 2-13-4 解体除却予定×住宅団地の造成時期

(解体除却予定×築年時期) SN₂=338

築年時期が古くなるほど、除却意向の割合が高くなっています。

表 2-13-5 解体除却予定×築年時期

解体除却予定 築年時期	除却を予定している		除却を今後考えたい		除却するつもりはない	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	4	5.0%	30	37.5%	25	31.3%
昭和46年～昭和55年	4	2.8%	38	26.4%	69	47.9%
昭和56年以降	1	1.1%	9	10.3%	56	64.4%
築年時期不明	0	0.0%	4	14.8%	5	18.5%

解体除却予定 築年時期	その他		予定不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
昭和45年以前	16	20.0%	5	6.3%	80	100.0%
昭和46年～昭和55年	27	18.8%	6	4.2%	144	100.0%
昭和56年以降	10	11.5%	11	12.6%	87	100.0%
築年時期不明	4	14.8%	14	51.9%	27	100.0%

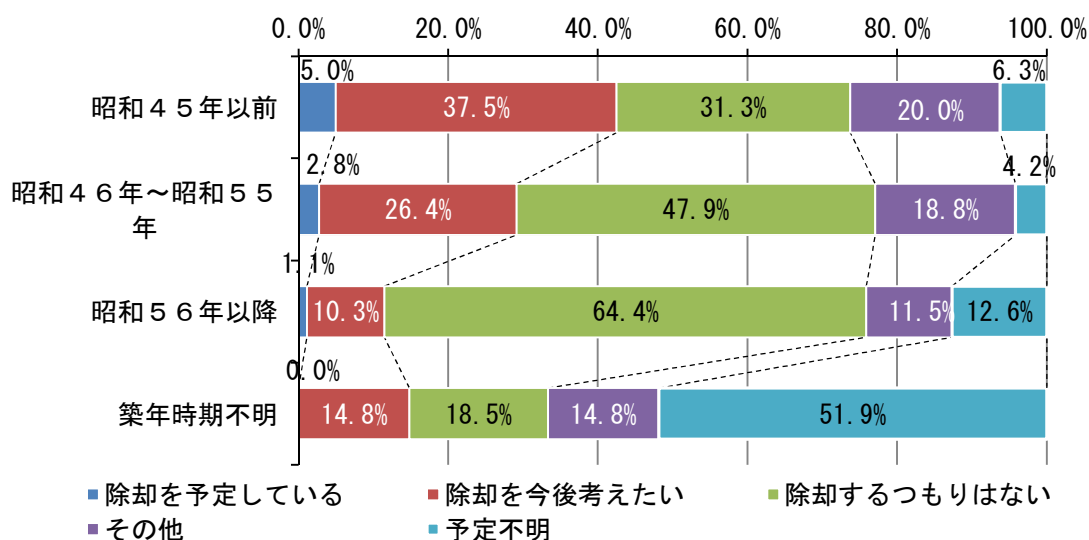


図 2-13-5 解体除却予定×築年時期

(解体除却予定×今後の活用方法) MN₅=510

「解体して土地を利用したい」とする人の除却意向が特に高くなっていますが、「売却したい」や「無償でもよいので手離したい」、「賃貸としても運用したい」と回答している人についても除却意向が高くなっています。

表 2-13-6 解体除却予定×今後の活用方法

今後の活用方法	解体除却予定		除却を今後考えたい		除却するつもりはない	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自分または家族が住む	1	1.9%	5	9.3%	40	74.1%
セカンドハウス、物置、倉庫として使用する	2	2.4%	18	21.7%	54	65.1%
解体して土地を利用したい	3	7.7%	29	74.4%	3	7.7%
相続し、子や孫などに利用してもらう	1	2.4%	9	22.0%	25	61.0%
賃貸として運用したい	0	0.0%	15	30.6%	25	51.0%
売却したい	5	4.3%	39	33.6%	32	27.6%
無償でもよいので手離したい	0	0.0%	4	33.3%	5	41.7%
予定なし(現状のまま)	0	0.0%	12	16.7%	48	66.7%
その他	0	0.0%	8	26.7%	8	26.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

今後の活用方法	解体除却予定		その他		予定不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自分または家族が住む	4	7.4%	4	7.4%	4	7.4%	54	100.0%
セカンドハウス、物置、倉庫として使用する	6	7.2%	6	7.2%	3	3.6%	83	100.0%
解体して土地を利用したい	4	10.3%	4	10.3%	0	0.0%	39	100.0%
相続し、子や孫などに利用してもらう	5	12.2%	5	12.2%	1	2.4%	41	100.0%
賃貸として運用したい	8	16.3%	8	16.3%	1	2.0%	49	100.0%
売却したい	34	29.3%	34	29.3%	6	5.2%	116	100.0%
無償でもよいので手離したい	1	8.3%	1	8.3%	2	16.7%	12	100.0%
予定なし(現状のまま)	11	15.3%	11	15.3%	1	1.4%	72	100.0%
その他	11	36.7%	11	36.7%	3	10.0%	30	100.0%
無回答	1	7.1%	1	7.1%	13	92.9%	14	100.0%

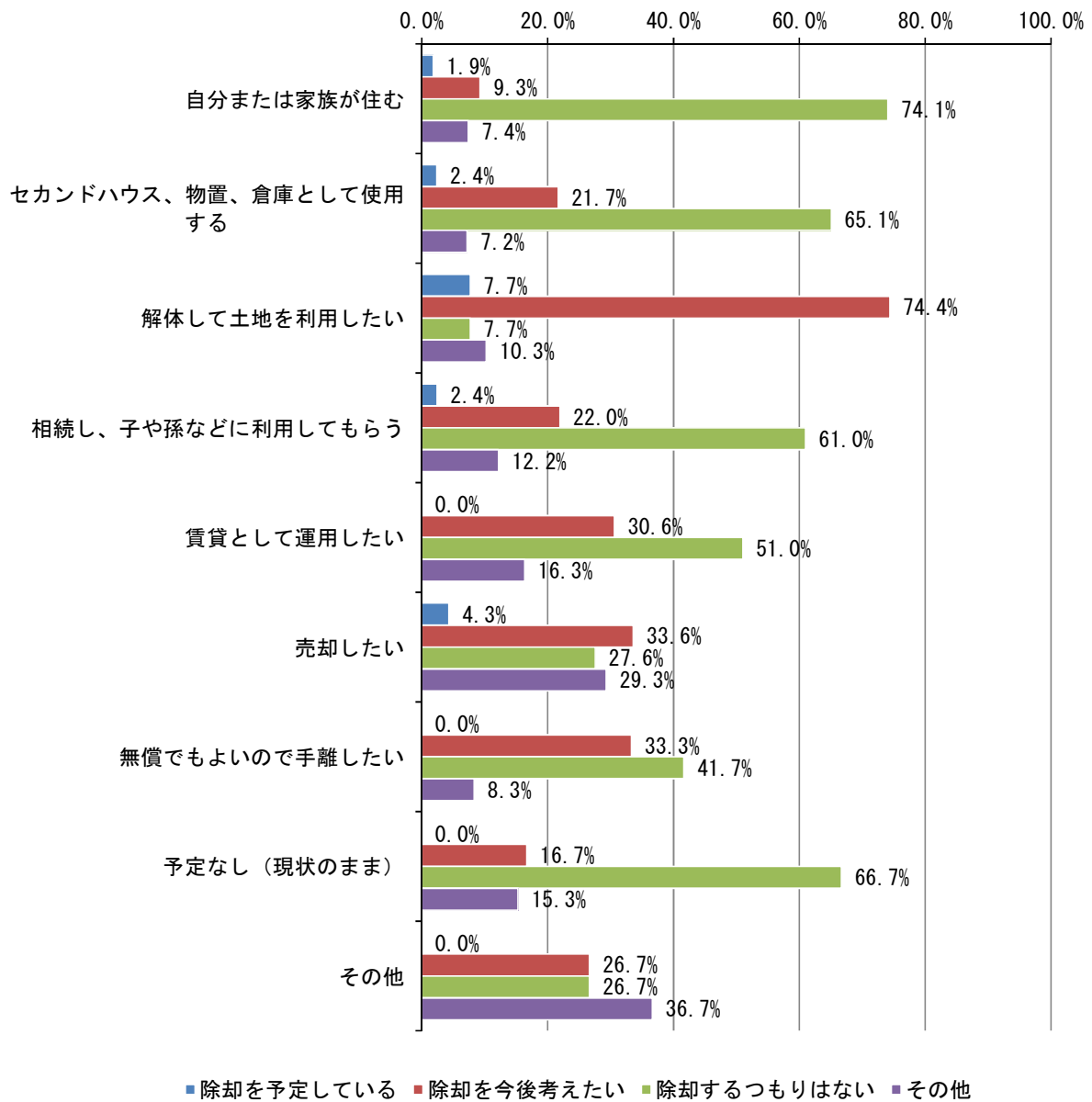


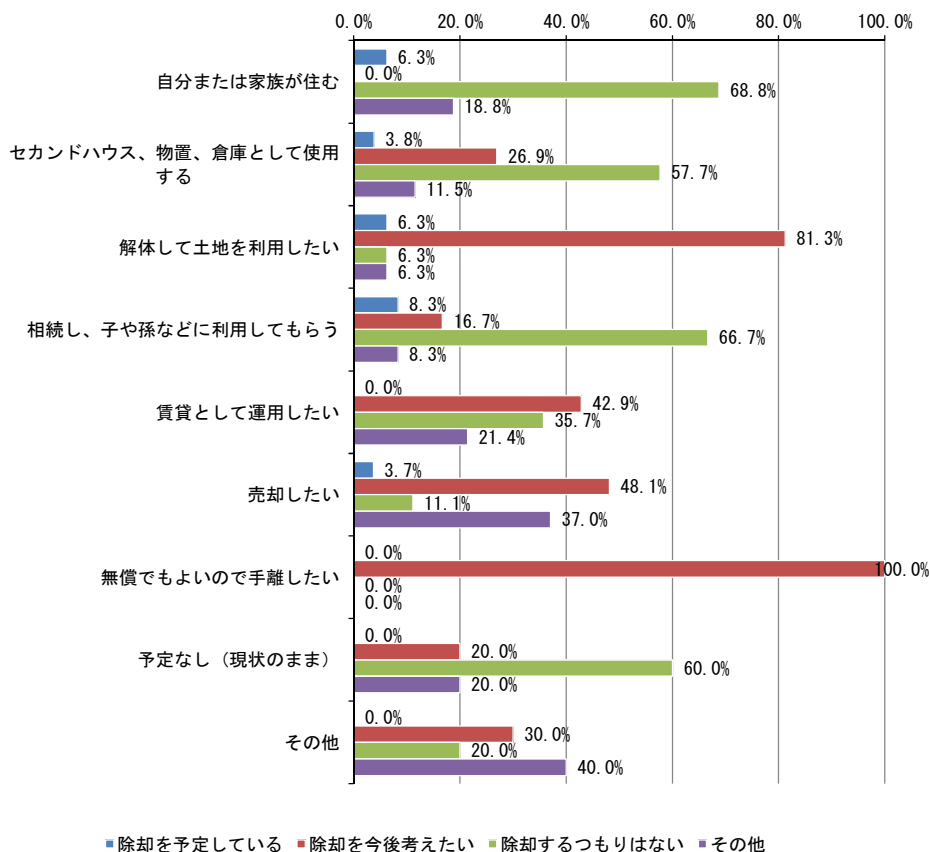
図 2-13-6 解体除却予定×今後の活用方法

「既成市街地」と「その他の地域」では、「セカンドハウス、物置、倉庫として使用する」や「賃貸として運用したい」など活用を考えていると同時に除却の意向も高くなる傾向にあります

(既成市街地)

今後の活用方法	解体除却予定		除却を予定している		除却を今後考えたい		除却するつもりはない	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自分または家族が住む	1	6.3%	0	0.0%	11	68.8%		
セカンドハウス、物置、倉庫として使用する	1	3.8%	7	26.9%	15	57.7%		
解体して土地を利用したい	1	6.3%	13	81.3%	1	6.3%		
相続し、子や孫などに利用してもらおう	1	8.3%	2	16.7%	8	66.7%		
賃貸として運用したい	0	0.0%	6	42.9%	5	35.7%		
売却したい	1	3.7%	13	48.1%	3	11.1%		
無償でもよいので手離したい	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%		
予定なし(現状のまま)	0	0.0%	4	20.0%	12	60.0%		
その他	0	0.0%	3	30.0%	2	20.0%		
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		

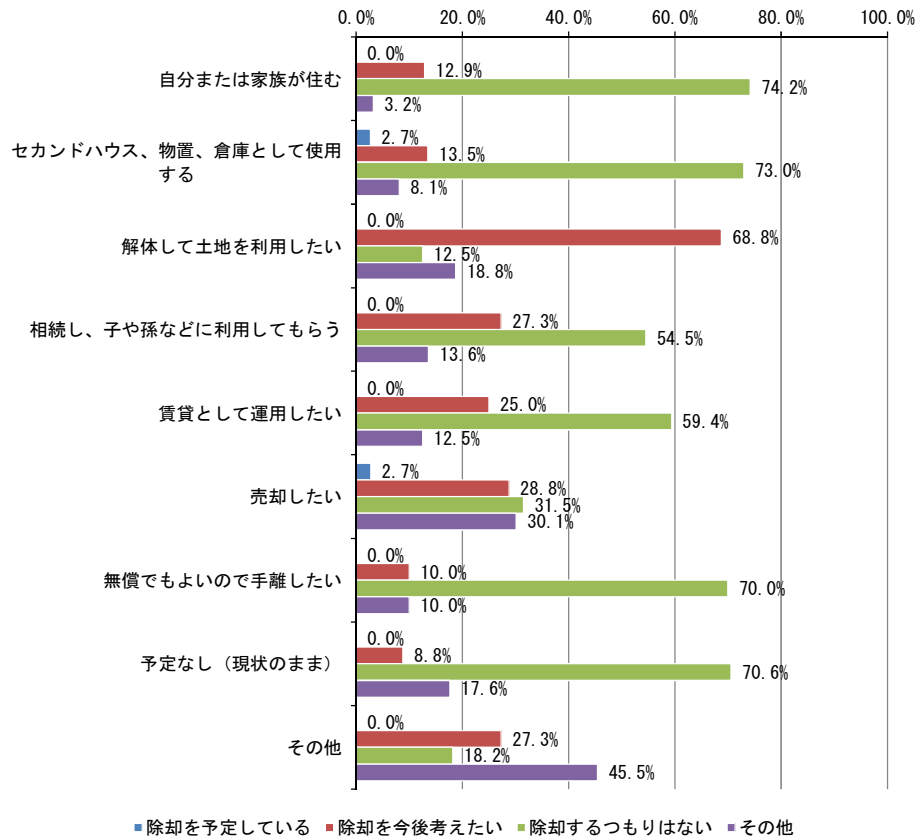
今後の活用方法	解体除却予定		その他		予定不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自分または家族が住む	3	18.8%	1	6.3%	16	100.0%		
セカンドハウス、物置、倉庫として使用する	3	11.5%	0	0.0%	26	100.0%		
解体して土地を利用したい	1	6.3%	0	0.0%	16	100.0%		
相続し、子や孫などに利用してもらおう	1	8.3%	0	0.0%	12	100.0%		
賃貸として運用したい	3	21.4%	0	0.0%	14	100.0%		
売却したい	10	37.0%	0	0.0%	27	100.0%		
無償でもよいので手離したい	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%		
予定なし(現状のまま)	4	20.0%	0	0.0%	20	100.0%		
その他	4	40.0%	1	10.0%	10	100.0%		
無回答	1	33.3%	2	66.7%	3	100.0%		



(住宅団地)

今後の活用方法	解体除却予定		除却を予定している		除却を今後考えたい		除却するつもりはない	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自分または家族が住む	0	0.0%	4	12.9%	23	74.2%		
セカンドハウス、物置、倉庫として使用する	1	2.7%	5	13.5%	27	73.0%		
解体して土地を利用したい	0	0.0%	11	68.8%	2	12.5%		
相続し、子や孫などに利用してもらおう	0	0.0%	6	27.3%	12	54.5%		
賃貸として運用したい	0	0.0%	8	25.0%	19	59.4%		
売却したい	2	2.7%	21	28.8%	23	31.5%		
無償でもよいので手離したい	0	0.0%	1	10.0%	7	70.0%		
予定なし(現状のまま)	0	0.0%	3	8.8%	24	70.6%		
その他	0	0.0%	3	27.3%	2	18.2%		
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		

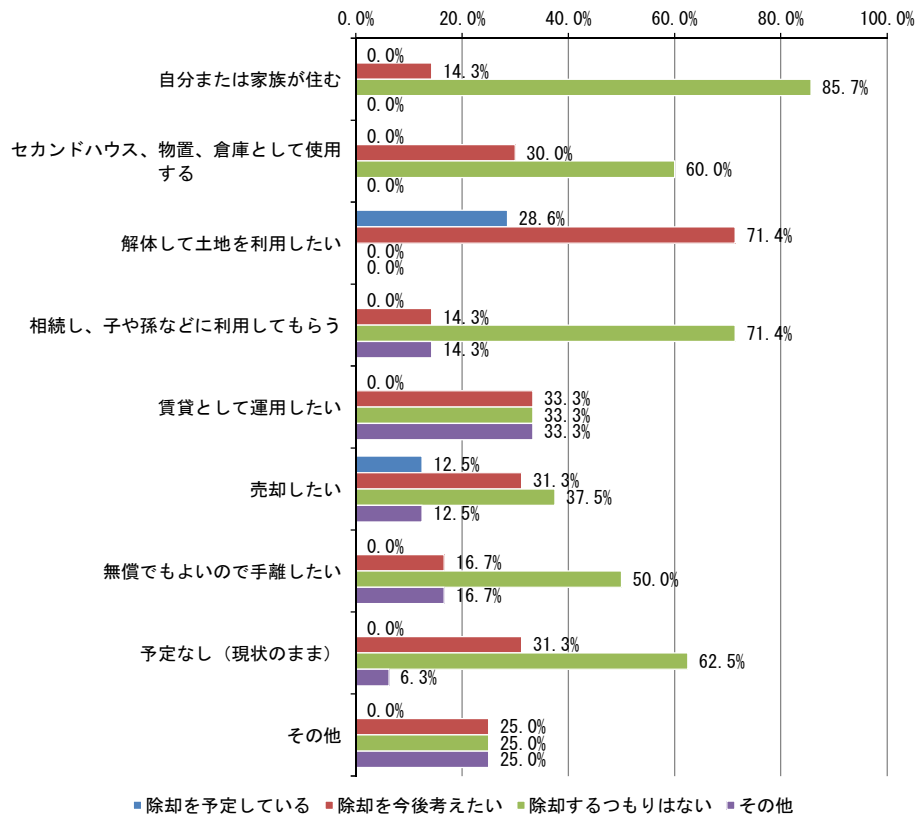
今後の活用方法	解体除却予定		その他		予定不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自分または家族が住む	1	3.2%	3	9.7%	31	100.0%	31	100.0%
セカンドハウス、物置、倉庫として使用する	3	8.1%	1	2.7%	37	100.0%	37	100.0%
解体して土地を利用したい	3	18.8%	0	0.0%	16	100.0%	16	100.0%
相続し、子や孫などに利用してもらおう	3	13.6%	1	4.5%	22	100.0%	22	100.0%
賃貸として運用したい	4	12.5%	1	3.1%	32	100.0%	32	100.0%
売却したい	22	30.1%	5	6.8%	73	100.0%	73	100.0%
無償でもよいので手離したい	1	10.0%	1	10.0%	10	100.0%	10	100.0%
予定なし(現状のまま)	6	17.6%	1	2.9%	34	100.0%	34	100.0%
その他	5	45.5%	1	9.1%	11	100.0%	11	100.0%
無回答	0	0.0%	10	100.0%	10	100.0%	10	100.0%



(その他の地域)

今後の活用方法	解体除却予定		除却を予定している		除却を今後考えたい		除却するつもりはない	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自分または家族が住む	0	0.0%	1	14.3%	6	85.7%		
セカンドハウス、物置、倉庫として使用す	0	0.0%	6	30.0%	12	60.0%		
解体して土地を利用したい	2	28.6%	5	71.4%	0	0.0%		
相続し、子や孫などに利用してもら	0	0.0%	1	14.3%	5	71.4%		
賃貸として運用したい	0	0.0%	1	33.3%	1	33.3%		
売却したい	2	12.5%	5	31.3%	6	37.5%		
無償でもよいので手離したい	0	0.0%	1	16.7%	3	50.0%		
予定なし(現状のまま)	0	0.0%	5	31.3%	10	62.5%		
その他	0	0.0%	1	25.0%	1	25.0%		
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

今後の活用方法	解体除却予定		その他		予定不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自分または家族が住む	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%
セカンドハウス、物置、倉庫として使用す	0	0.0%	0	0.0%	2	10.0%	20	100.0%
解体して土地を利用したい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%
相続し、子や孫などに利用してもら	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%
賃貸として運用したい	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%
売却したい	2	12.5%	1	6.3%	1	6.3%	16	100.0%
無償でもよいので手離したい	1	16.7%	1	16.7%	1	16.7%	6	100.0%
予定なし(現状のまま)	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	16	100.0%
その他	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	4	100.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%	3	100.0%



【問 1 4】 空き家・空き地バンクの認知度 SN₂=338

(空き家・空き地バンクの認知度)

「知らないし、登録するつもりはない」が 40.5%と最も多く、「知らないが、登録してみたい」の 19.2%を加えると半数以上が制度を知っておらず、制度の認知度は低いといえます。一方で、「知っており、登録してみたい」が 5.0%で、「知らないが、登録してみたい」の 19.2%を加えると 2 割強の人に登録意向がみられます。

表 2-14-1 空き家・空き地バンクの認知度

空き家・空き地バンクの認知度	回答数	割合
知っており、登録してみたい	17	5.0%
知っているが、登録するつもりはない	61	18.0%
知らないが、登録してみたい	65	19.2%
知らないし、登録するつもりはない	137	40.5%
回答不明	58	17.3%

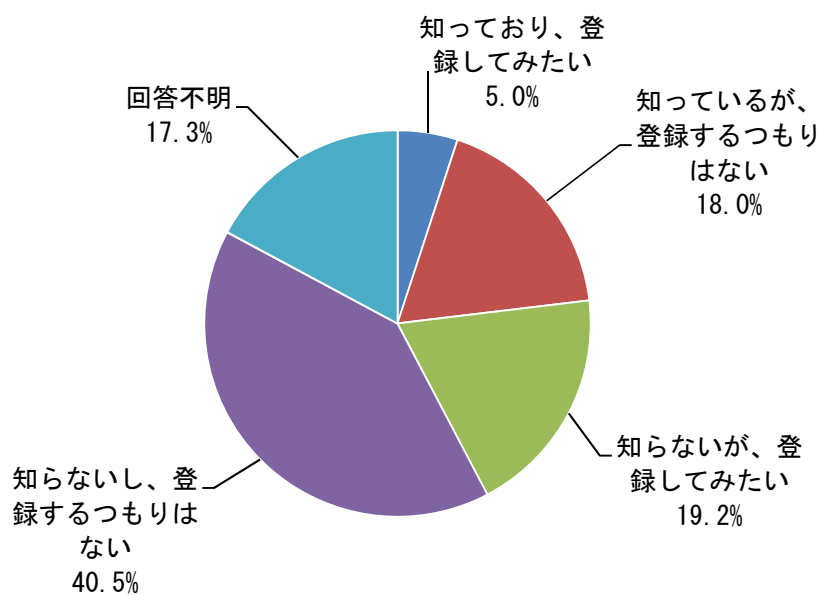


図 2-14-1 空き家・空き地バンクの認知度

(空き家バンクの認知度×利用区分) SN₂₋₂=336

「完全な空家」、「活用中の空家」ともに認知度は低くなっていますが、「活用中の空家」については登録意向も低くなっています。

表 2-14-2 空き家バンクの認知度×利用区分

時期 利用区分	知っており、登録してみたい		知っているが、登録するつもりはない		知らないが、登録してみたい	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	8	7.1%	18	15.9%	34	30.1%
活用中の空家	9	4.0%	43	19.3%	31	13.9%

時期 利用区分	知らないし、登録するつもりはない		回答不明		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
完全な空家	34	30.1%	19	16.8%	113	100.0%
活用中の空家	103	46.2%	37	16.6%	223	100.0%

※利用状況が無回答（2件）除く

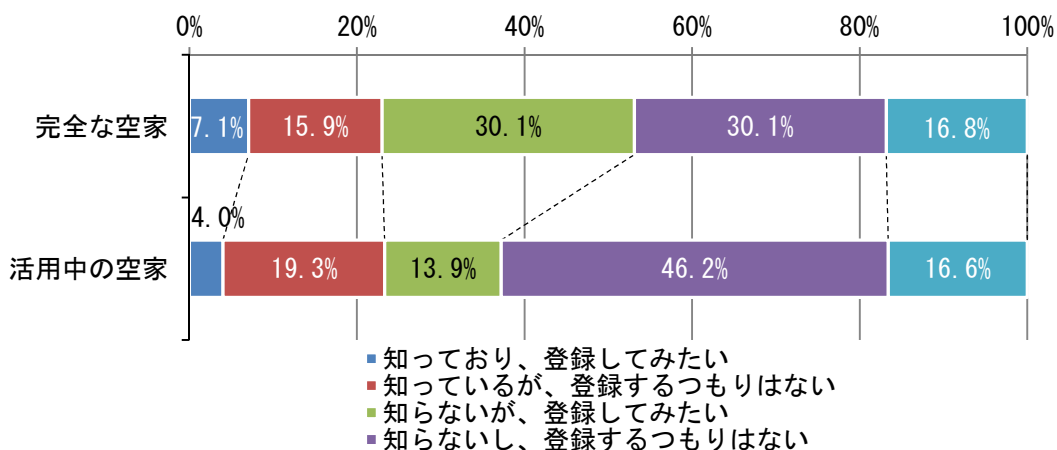


図 2-14-2 空き家バンクの認知度×利用区分

(空き家バンクの認知度×立地状況) SN₂=338

住宅団地を対象とした制度であるため、他の地域に比べ、「住宅団地」における認知度は高くなっていますが、割合としては2割強にとどまっており、認知度は低いといえます。

表 2-14-3 空き家バンクの認知度×立地状況

利用区分	時期	知っており、登録してみたい		知っているが、登録するつもりはない		知らないが、登録してみたい	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地		3	3.0%	15	15.2%	25	25.3%
住宅団地		14	7.7%	34	18.7%	34	18.7%
その他の地域		0	0.0%	12	21.1%	6	10.5%

利用区分	時期	知らないし、登録するつもりはない		回答不明		合計	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
既成市街地		44	44.4%	12	12.1%	99	100.0%
住宅団地		66	36.3%	34	18.7%	182	100.0%
その他の地域		27	47.4%	12	21.1%	57	100.0%

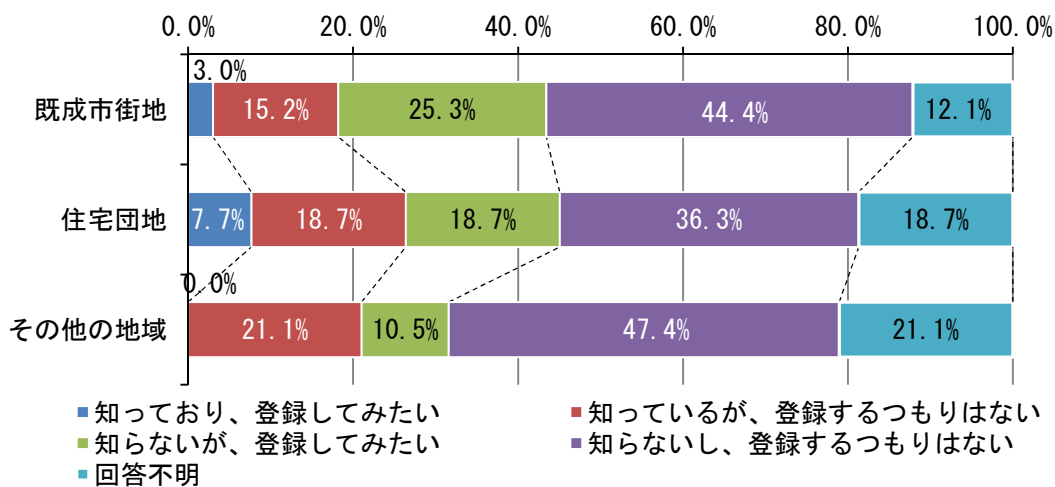


図 2-14-3 空き家バンクの認知度×立地状況

【自由意見】

自由意見については、13項目 115件の意見をいただいた。主な意見としてはすでに「売却済み」で所有権が移転したという報告や維持・管理に関する現在の状況報告といった意見が多く寄せられています。

また、調査対象の建物が空家ではないという「非空家」に関する情報も多く、「非空家」の回答者から「現況調査」における空家とした判断基準に関する質問も多くなっています。維持・管理における「管理上の問題」や、今後の利活用についての「売却希望」といった意見も多くみられました。

表 2-15-1 自由意見の分類整理

項目	細目	件数	
維持・管理について	管理上の問題、悩み	7	17
	現在の状況報告	10	
今後の利活用について	売却希望	9	14
	売却に際しての問題	3	
	建替えに際しての問題	1	
	利活用方法検討中	1	
空家に関する問題	近隣トラブル	2	4
	周辺景観への影響	1	
	治安上の問題	1	
空家の取扱い全般に関する意見	今後の悩み、相談	2	2
空き家・空き地バンク	運用上の要望、質問	2	12
	詳しい情報が欲しい	4	
	対象外物件	3	
	登録済みの報告	3	
空家関連情報	買い取り制度の有無	1	2
	売却業者の紹介	1	
所有者情報・所有権	所有権移転	4	22
	所有者情報の変更	3	
	売却済みの報告	15	
相続、譲渡に関する意見	譲渡先に関する問題	1	3
	相続に関する問題	2	
	相続者情報の報告	2	2
支援制度に関する要望	買い取り制度	1	1
現況調査について	調査内容についての質問	1	1
費用・税金に関する意見	費用（修繕、解体など）の問題	4	7
	固定資産税に関する意見	3	
非空家の報告	解体済み、建替え済み	5	17
	現況調査に関する意見	6	
	現在の利用状況の報告	6	
その他		11	11
	計		115